

独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

タンザニア国  
地方開発セクタープログラム  
策定支援調査

第3冊  
詳細報告書

第3分冊 フェーズ4 (2003年度分)

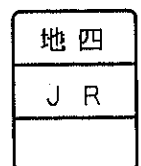
JICA LIBRARY



1181049(6)

2004年3月

財団法人 国際開発センター





## 第3冊詳細報告書第3分冊の構成

### フェーズ4（その1）の詳細報告

（2003年5月～2003年9月）

### フェーズ4（その2）の詳細報告

（2003年10月～2004年3月）

本詳細報告書は、それぞれのフェーズで作成したプロGRESSレポートをとりまとめたものである。なお、本報告書には2004年1月の月報までが掲載されているが、2～3月の月報は別途、提出されている。



1181049[6]

# フェーズ4（その1）の詳細報告

（2003年5月～2003年9月）



# 目次

---

略語表 .....	1-1
-----------	-----

5月の活動 .....	2-1
-------------	-----

1. 現地調査業務の概要及び結果
2. 現地調査業務の詳細
3. 今後の活動予定

6月の活動 .....	3-1
-------------	-----

1. 現地調査業務の概要及び結果
2. 現地調査業務の詳細
3. 今後の活動予定

7月の活動 .....	4-1
-------------	-----

1. 現地調査業務の概要及び結果
2. 現地調査業務の詳細
3. 今後の活動予定

8月の活動 .....	5-1
-------------	-----

1. 現地調査業務の概要及び結果
2. 現地調査業務の詳細
3. 今後の活動予定

9月の活動 .....	6-1
-------------	-----

1. 現地調査業務の概要及び結果
2. 今後の活動予定





## 2003年5月の活動結果

- ASDP 詳細設計のためのタスクフォース1～3の立上げ
- 初年度 DADP の現物入手するとともに、ガイドラインの適用実態調査のためのコースト州各県へコンタクトを開始
- ASDP の実施の仕方を巡って高まるバイとマルチの緊張

# 1. 現地調査業務の概要及び結果

## 1-1. 5月の活動概要

調査団は、5月13日にタンザニアに到着し、月末まで以下の調査業務を実施した。

(1) ASDP 枠組文書、サブ・プログラム文書が昨年12月末までに承認されたことを受けて、その実施のため3つのタスクフォースの立上げ会合が順次行われた。RADAGは、ASDPタスクフォース1（県レベルの計画策定能力と実施能力の向上）の立上げ会合に参加して、議論に貢献した。

(2) DADP の作成・選定・実施を実質的に取り仕切る PO-RALG は、今年度の DADP を 114 県全てから提出させることに成功した。RADAG は、そのうち、コースト州内の 6 県の DADP を入手して、実地訪問に先立つ分析作業を行なった。また、RADAG として作成を支援したコースト州以外に、他ドナーが支援を実施してきた州で作成された DADP を入手した（シニャンガ州、モロゴロ州、ムベヤ州、イリンガ州）。

(3) FAO-Investment Center が作成した ASDP のモニタリングと評価 (M&E) に関するワーキング・ペーパーが提出されたので、その検討と改善のための提案を作成した。

(4) ASDP 及び DADP の今後の進め方を探るため、主要な関係者にヒアリングを実施した（ピテゲコ・MAFS 政策計画局長、ムシンギ・PO-RALG 局長、クンディ教授（タスクフォース1のFacilitator、アマニ教授（ESRF））

図表1には5月中に調査団が関わった主要な出来事をまとめた。

## 1-2. 5月の活動の注力点

調査団が5月に注力した業務は以下の点である。

- FASWOG タスクフォース及び ASDP タスクフォース1（テーマ：県レベルの計画策定能力と実施能力の向上）への参加
- 作成されたDADPの入手と分析
- ASDP M&E ワーキング・ペーパーの検討と提案作成
- ASDP の進め方に関する関係者からの意見聴取

図表 1 調査団が関わった主要な出来事の一覧

Date	Day	Activities		
		FASWOG Taskforce	Revision of Guidelines/ Visit of Coast Region	RADAG meetings
12-May	Mon			
13-May	Tue			(Arrived at Dar es Salaam)
14-May	Wed	Taskforce 1 Launching Meeting at Morogoro		Meeting with JICA Office
15-May	Thu	(Taskforce 1 Launching Meeting at Morogoro)		
16-May	Fri	(Taskforce 1 Launching Meeting at Morogoro)		
17-May	Sat			
18-May	Sun			
19-May	Mon			
20-May	Tue	Informal Meeting 1 (Bilateral Donor +MAFS)		
21-May	Wed	Informal Meeting 2 (All Donors)		Meeting with JICA Office
22-May	Thu			Meeting with Director Musingi (FO-RALG) Meeting with Prof.Kundi(U of Dar.)
23-May	Fri			Meeting with Director Bitegeko(MAFS) Meeting with Prof.Amani(ESRF)
24-May	Sat		Visiting Musingi's Office	
25-May	Sun			
26-May	Mon			
27-May	Tue	FASWOG Taskforce Meeting		
28-May	Wed			Meeting with JICA Office
29-May	Thu			
30-May	Fri			
31-May	Sat			

☐ Saturdays, Sundays and public holidays

(出所：調査団作成)

## 2. 調査団不在時の動き（3月下旬～5月上旬）

### 2-1. 3月下旬～5月上旬の主な会合

調査団不在時の主な会合は、次の通り。

4月24日 FASWOG タスクフォース会合

同会合において、ASDP のサブ・プログラム詳細設計のための3つタスクフォースのメンバーや予算などが議論された。（収集資料1. 参照）

### 2-2. 各種懸案事項

#### (1) マルチ・ドナーとバイ・ドナーの対立

最近マルチ・ドナーとバイ・ドナーの意見の違いがはっきりしてきたことから、両者の対立関係が深まり、ドナー・コーディネーションに影響を及ぼすまでになっている。

そもそものきっかけは、3月末に来「タ」した FAO/IFAD/世銀のミッション<sup>1</sup>（以下 FAO Investment Center [FAO-IC] ミッションと略す。）であった。本ミッションの目的は、ASDP 事務局の下に設置されることになっているタスク・フォースのうちの一つであるタスク・フォース3（以下 TF3 と略す。）の立ち上げ支援であったが、このミッションの来「タ」に対し、現地のバイ・ドナーが「現地におけるドナー・コーディネーション・プロセスを無視したものであり、またあまりに突然すぎる。」「そもそも TF3 自体立ち上がっていない。」としてミッションに対しブリーフィングを求めた。この求めに応じて、後日各国大使館の次席が出席するブリーフィングが行われた。当初、本ブリーフィング後には FASWOG 会合を開催する予定であったが、ブリーフィングが 12 時から 15 時までにおよび結局 FASWOG 会合は開催されずじまいであった。本ブリーフィングにおけるバイ・ドナーからの主な発言は以下のとおり。

- ・「自分たちのスケジュールを押し通す形で物事を進めようとしているのは適切ではない。」（複数のドナー）
- ・「現地においてドナーは『タ』政府との協議を通じて、援助調整を行ってきた。その事実にも関わらず、これをサイドライン化し、マルチ・ドナーが『タ』政府との間だけで援助内容を協議しようとしているのは、ドナー間の援助調整の改善に向けて現地ドナーが行ってきたこれまでの努力を無にするものである。」（アイルランド）

一方、FAO-IC ミッションの団長であった FAO-IC Guy Evers は、本ブリーフィングに

---

<sup>1</sup>3月30日から4月15日まで滞在した。FAO-IC ミッションの団長は、FAO-IC Guy Evers であり、その他 FAO コンサルタント2名、IFAD コンサルタント3名、世銀コンサルタント1名（滞在期間：4月5日から12日まで）から構成された。

において「われわれは『タ』政府から要請を受けて来訪しているのに、他のドナーがそれに反対するというのは、これは一体何なのだ？」と憤慨した。

結果として FAO-IC ミッションは、現地パイ・ドナーからその来「タ」の意義を認められなかった。その存在意義の否定は、Aide Memoire の説明会（5 月 14 日）にパイ・ドナーからは誰も出席しない事態によって再び明示されることになった。（パイ・ドナーの不参加の背景には、アイルランドが行うワークショップと日が重なっていたことおよびイースターと重なっていたことも挙げられるが、主体的に不参加を決めたドナーも存在した。）

後日になって、EU が FAO 経由で ASDP 事務局に対し技術支援を行う旨 Aide Memoire 中に記載されており、EU と FAO との間に何らかの合意が存在することが発覚した。具体的には、EU がファイナンスし、FAO-IC がバックストップ、モニタリング・評価などのアドバイザーを派遣する。（現在 EU は独自にプロジェクト・フォーミュレーションを進めている。検討されているプロジェクトは、STABEX [Stabilisation of Exports] と呼ばれる資金援助であり、本年 7 月から 3 年間にわたり実施される。なお、その総額予算規模は 40 億円以上である。）アイルランドは、EU と FAO-IC との関係を「FAO-IC の営業活動に EU (Ria Ketting) が上手くのって、FAO-IC の仕事を作っているだけだ。」と発言している。

さらに、現地において月に 1 回のペースで開催されている DAC 会合（議長：UNDP および世銀）においても、FAO-IC ミッションに関して、デンマークおよびアイルランドが世銀を非難する発言を行った。その結果、本会合において世銀の面目は丸つぶれの格好となり、これら一連の非難を受け、憤慨した世銀は、農業食糧保障省（MAFS）大臣宛に「FASWOG タスク・フォースの発言はおかしい。FAO-IC ミッションは『タ』政府の要請に基づくものであり、すでに通知および合意済みの話である。FASWOG タスク・フォースの発言は全くの言いがかりである。」との内容を記載した文書を提出した。世銀の主張によると、「FAO-IC ミッションの派遣については、2 月にローマで開催された IFAD 年次総会において、FAO、IFAD、世銀と MAFS 大臣および次官が協議においてすでに合意していた。」としている（「FAO、IFAD、世銀の 3 者は TF3 に対する支援の用意があると言及し、MAFS 大臣および次官からその了承を得た。」とのこと。）

その後、アイルランド、デンマーク、日本の連名で世銀の所長に対し、抗議の文書を発出した。本文書の内容は、以下のとおりである。（添付書類 3. 参照）

- ・ 「FAO-IC ミッションの背景にあるとされた『タ』政府と FASWOG との間のコーディネーションの不和については、そもそも FASWOG は『タ』政府をそのメンバーとして内包するものであるから、指摘されているような相対関係にないこと」
- ・ 「FAO-IC ミッションの TOR が現地に知らされたのはミッションの現地到着直前であり、タイミングとして好ましいとは言えなかったこと」
- ・ 「FAO-IC ミッションの TOR では TF3 の立ち上げを支援すると謳われているが、その時点において TF3 は存在していなかったこと」

こうした世銀に対する抗議の一方で、EU の「ルール」を無視した行動に対しどのように制裁を加えるべきか他ドナー間において現在検討中である。そのため、来週中（5 月 19 日から）にドナー会合が開催する予定である。（つまり、世銀と EU に対してバイ・ドナーのグループは二正面作戦を展開していると言える。）

なお、ドナー会合に先立って 5 月 19 日に EU を交えた昼食会を開催するはずであったが、EU はその場に現れず、結局参加したのは日本、デンマーク、アイルランドの三者であった。なお、その翌日（20 日）にも再び昼食会を開催し、EU と協議の場を設けようと努力しているものの、EU は「多忙を極めているため時間に余裕がない。」「『夕』政府関係者が参加しないのならば（昼食会には）参加しない。」等々の理由を述べ昼食会への参加を拒否し続けていることから EU との協議の実現可能性は低い状態にある。

## （2）ASDP 事務局支援に関する MOR について

ASDP 事務局支援のための Memorandum of Reference (MOR) についてはまだ決着していない。EU などが行なうバスケットの枠外での支援を MOR に記載すべきか否か、もし記載すべきとすればどのように記載すべきかについて合意が得られていないためである。MAFS 次官も病床にあるため、会合に顔を出せない状態にある。実際、FASWOG タスク・フォース関係者は、ASDP 事務局以下に設置されるタスク・フォースの立ち上げに掛かり切りの状態である。

## （3）FASWOG タスク・フォースの FASWOG への格上げ問題について

FASWOG タスク・フォースの FASWOG への格上げ問題については、4 月 24 日の FASWOG タスク・フォース会合においても話題に挙がったが、「FASWOG で話し合われるべき問題である」と認識されている一方で、その議長を務める MAFS 次官が出席できないため開催できない状態が続いている。そのため未だ解決をみていない。なお、「FASWOG タスク・フォースを FASWOG へ格上げする」という案に加え、「FASWOG タスク・フォースを ASDP Finance Committee (AFC) へと昇華する」という案も挙がっている。

## （4）貧困モニタリングについて

農業サーベイをディストリクト（県）ベースで実施することが決定しているが、日本は見返り資金を用いて、当初の 20 万ドルに 30 万ドルを加えた 50 万ドルを農業サーベイのためのバスケットへ拠出することを検討している。。農業サーベイは日本の他、「夕」政府および EU からの拠出金により賄われる。

## （5）「夕」政府職員のプレッシャーについて

現在「貧困削減のためには経済成長が必要である」との観点から農業が注目を集めているにも拘わらず、未だ ASDP が策定段階にあり、「一体 FASWOG は何をやっているのか」と

MAFS を初めとする農業関係省役人に対し、国会議員等代議士からプレッシャーがかかっている。そのため、MAFS も目の前にぶら下がる国際機関からのコンディショナリティの低い、多額の援助資金（＝イージー・マネー）に飛びついている現状を認識する必要がある。そのため、これまで多くのドナーが「ドナー協調」の信念の下、セクター・プログラムを押し進めてきたにも拘わらず、結局実際のインプリメンテーションではこれまでと何らか変わりが無いプロジェクトが幅を利かせる状態も十分予想される事態となっている。現在の状態が続くと、最悪の場合、バイ・ドナーが引き上げる可能性も否めない状態にあると言える。

### **3. 現地調査業務の詳細（FASWOG 及び ASDP タスクフォース、DADP 分析調査、M&E、関係者ヒアリング、その他）**

#### **3-1. FASWOG タスクフォース及び ASDP タスクフォース 1（県レベルの計画策定能力と実施能力の向上）への参加**

##### **（1）進捗**

今月は、ASDP の実施のため 3 つのタスクフォースの立上げ会合が順次行われた。このうち、RADAG は、ASDP タスクフォース 1（県レベルの計画策定能力と実施能力の向上）の立上げ会合に参加して、議論に貢献した。以下の各会合に参加し、議事録作成、コメントの作成等を実施した。

##### **（2）今月の主な動き**

今月の主な動きは、次の通り。

5月14日～16日	ASDP タスクフォース 1 の立上げ会合
5月20日	関係者会合（バイのドナー+MAFS）
5月22日	インフォーマル・ドナー会合
5月27日	FASWOG タスクフォース会合

##### **（3）各会合の概要**

## 1) 関係者会合（バイのドナー+MAFS）

調査団不在時の状況（2-2）で解説した状況を踏まえて5月20日に開催された関係者会合（バイ・ドナー+MAFS）の協議の概要は以下のとおり。

日時：5月20日（火）午後

場所：MAFS 会議室

参加者：EU(Ria Ketting)、FAO (Pierr Gence)、デンマーク大使館 (Anne Marie)、DfID (Liz Dutchburn)、アイルランド大使館(Sizya Lugeye)、JICA (花谷企画調査員)、MAFS (Ms.Bitegeko)、他政府関係者

### 1. 関係者会合開催の背景

FAO/EU/WB ミッションの派遣予定とそれに対するバイ・ドナーの抗議文書の発出等の問題を協議するために予定されていた5月20日のドナー昼食会は結局、開催されなかった。

開催見送りの理由は、EU が従来の主張を変えずに欠席したからである。その主張とは、次のとおり。

「ドナーだけが参加する会合ならば参加しない。また、たとえ EU と FAO の合意に基づくものであっても、6 月に来訪する FAO/IFAD/世銀のミッション<sup>2</sup> (FAO-IC ミッション) は『タ』政府から要請に基づくものであるので、とりたてて現地のドナーにその説明をする必要はない。」

こうした EU の意向を受けて、MAFS Bitegeko 政策計画局長とタンザニア政府関係者を交えた会合の開催を打診し、急ぎよ MAFS、ASDP 事務局、ほとんどの関係ドナー（EU を含む）が出席する会合が同日開催されることになった。

### 2. 関係者会合の概要

会合冒頭、JICA タンザニア事務所（花谷企画調査員）から以下のとおり本会合の背景説明が行われた。

「現在検討中である ASDP 事務局支援のための Memorandum of Reference (MOR) におけるワーク・プランの内容と EU が現在進める FAO 経由の長期技術支援の内容との間には重複がある。そのため、EU から関係者に対して説明を行うよう求めたい。」

「また、EU は多様な内容の技術支援を検討しているようなので、この点についても協議したい。」

(ア) EU の進める FAO 経由の長期技術支援について

<sup>2</sup> 本ミッションの団長は、FAO-IC Guy Evers である。



EU (Ria Ketting) は、「FAO 経由の長期技術支援は、MOR におけるワーク・プランの外側で行うもので、ASDP 事務局に対するバックストップのためのものである。よって、ASDP 事務局の活動と何ら矛盾しない。」と述べた。

しかしながら、5月13日に関係者に連絡されたEUのASDP事務局支援の技術支援(FAO 経由でバックストップ、モニタリング・評価などのアドバイザーを派遣する)の内容を記したメールに話が及ぶと、EU はなかなか「重複」を認めようとはしなかったものの、最終的に「評価・モニタリングの部分は実施しないことにする。」と言及した。その一方で、EU は本会合において以下のように明言した。

「長期技術支援(バックストップ)は是非実施したい。現在検討しているのは3年間にわたり、半年に2週間当地を来訪して実施する活動である。つまり、長期技術支援(バックストップ)は、(ASDPを支配するものではなく、)組織運営の支援である。」

「県レベルにおける実施プロジェクトに関するデータ・ベース作成もまた、是非実施を支援したいと考えている分野である。」

FAO タンザニア事務所長(Pierre Gence)は、「FAO 経由の長期技術支援に関するアドバイザーの選定プロセスには透明性を持たせる。アドバイザーの選定においては、FAO の人材に限らず、その他の人材も検討する。」と言及し、「他ドナーの存在を無視せず、FAO だけでは勝手に決めません」というスタンスを見せた。

(調査団注：本年2月17日に開催されたFASWOGタスク・フォースにおいて、EU およびアイルランドが「ASDP 事務局にかかる技術支援を支援する用意がある。」と発言していたが、その後「タ」政府がEU にのみ支援要請を行い、EU がその支援の資金の拠出を約束していた可能性もある。)

#### (イ) 6月に来訪するFAO-ICミッションについて

会合参加者から6月に来訪するFAO-ICミッションについての説明を求める声が挙がると、FAO タンザニア事務所長は、「本FAO-ICミッションは、TARP II (Tanzania Agricultural Research Project - Phase II) の監督指揮を目的に来訪するのだ。」と対応した。

しかし、MAFS Bitegeko 政策計画局長が本ミッションの来訪について知らなかったことおよび誰が一体本ミッションの来訪を要請したのかについて会合参加者が誰も知らないことが判明したため、最終的にMAFS Bitegeko 政策計画局長が本ミッションの来訪を受けるか否かについて翌日(22日)回答することとなった。

#### (ウ) FAO-ICミッションが作成するAide Memoireの取り扱いについて

本年2月および4月に来訪したFAO-ICミッションが作成したAide Memoireについても協議が行われた。この協議の背景には、この2つのAide Memoireについて、特に4月に来訪したミッションの存在自体が現地ドナーによって事実上否定されているので、どのドナーもその内容について真摯に受け止めていないことがある。そもそも、現地のドナーが「そ

これらの Aide Memoire を承認したことはなく、現地の活動を何ら拘束するものではない」と考える一方で、FAO-IC は「現地ドナーからコメントがなければ Aide Memoire は了承された」と考えている。そうした両者の Aide Memoire についての理解に差があることから、現地ドナーは FAO-IC に対し以下の感情を持つに至っている。

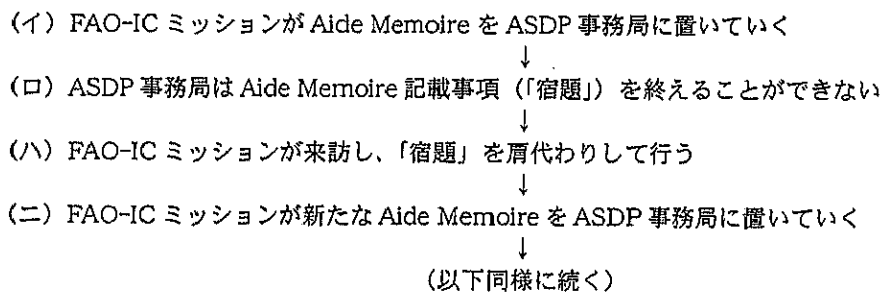
「Aide Memoire において、相談もなく勝手に、現地での ASDP に関するスケジュールを決められて不愉快だ。」

「Aide Memoire に記載されたスケジュールに遅延が生じたからといって、その遅延の責任を現地のドナーのせいにされても困る。」

こうした感情の根源には、FAO-IC ミッションが作成した文書を用いて、結局は ASDP 事務局が活動していることに対する現地ドナーの反発がある。

アイルランド大使館 (Sizya Lugeye) は、こうした現在の ASDP 事務局の状態に対し、以下のようにコメントした。

「ASDP 事務局と FAO-IC ミッションとの以下のような関係が、バックストップと称する FAO-IC ミッションの複数回にわたる来訪を可能にする構造を作り上げている。」



また、MAFS Bitegeko 政策計画局長は Aide Memoire について以下のようにコメントした。

「ASDP 枠組文書が承認されて以降、『タ』政府内でも FAO-IC ミッションが作成する Aide Memoire についての扱いをどうするか明確になっていないのが実状である。それに、『タ』政府が Aide Memoire を特に承認しているわけでもない。」

ここで、6 月の第一週目に行われることになっている国会の予算演説の作成に迫られる MAFS Bitegeko 政策計画局長は、「疲れた」として会合を終了した。

その後、ドナーだけで協議が行われ、以下の発言があった。

- ・ EU がファイナンスし FAO 経由で行うとする長期技術支援は、ASDP 事務局に対するバックストップとして、MOR に取って記載してはどうか。(DfID Liz Dutchburn)
- ・ EU が実施したいとしている「県レベルにおける実施プロジェクトに関するデータ・ベース作成」が現実に実施される際には、その予算を ASDP 事務局に対するバスケット・ファンドの全体予算額から差し引いてはどうか。(複数のドナー)

- ・FAO は「FAO 経由の長期技術支援を実施するアドバイザーの選定プロセスには透明性を持たせる。」としているが、「FAO 経由」でアドバイザー（コンサルタント）を備上するのは、信用が置けない。なぜなら、ASDP 見直し作業を行うとして選定されたコンサルタントは FAO-IC であり、その選定作業は無競争によるものだったからだ。また、「FAO 経由」では、「施主は FAO、背後に EU」という構造が生まれ、現地ドナーからドナー協調を通じ支援を実施しているという意識が無くなる可能性が高い。一方、現地においてアドバイザー選定作業を行うと、「発注者（施主）は『タ』政府」とはっきりする。（複数のドナー）
- ・「FAO 経由」でアドバイザー選定作業が行われるのは、ドナー協調の精神に反する話であり、適切ではない。（複数のドナー）

本協議において、「EU/FAO の長期技術支援への対応策」、「来訪する FAO-IC ミッションへの対応策」等に関し、22 日、バイ・ドナー（デンマーク大使館、DfID、アイルランド大使館、JICA）だけで協議することを決定した。

## 調査団の分析

日本はまず、その他のバイ・ドナーと協調し ASDP 事務局に対するバスケット・ファンドの設立を急ぎ進めなくてはならない。なぜならば、バスケット・ファンドの設立なくしては、現地ドナーを無視し巨額の資金をちらつかせて、「タ」政府にプロジェクトの実施を迫る世銀および FAO/EU らの動きに対応できないからである。

## 2) インフォーマル・ドナー会合

上記関係者会合での議論の結果を踏まえて、22 日に行われたバイ・ドナーの協議の概要は以下のとおりである。（出席者：デンマーク大使館、DfID、アイルランド大使館、JICA）

日時 : 5月22日(木)

参加者: デンマーク大使館 (Anne Marie)、DfID (Liz Dutchburn)、アイルランド大使館 (Sizya Lugeye)、JICA (花谷企画調査員)、

### 1. ASDP をめぐる動き

#### (1) EU/FAO の長期技術支援の取り扱いについて

会合参加者は、「EU がファイナンスし FAO 経由で行うとする長期技術支援は、ASDP 事務局に対するバックストップと位置づけて、Memorandum of Reference (MOR) に記載する。」との認識で一致した。一方、「EU が『FAO 経由の長期技術支援は ASDP のクオリティ・コントロールであり、ASDP フェーズ 2 のプロセスの外側で行うものである。そのため、本長期技術支援に関するアドバイザーの選定において競争入札は必要ない。』としていることは懸案事項である。」との認識でも一致した。（この EU の発言の背景として、すでに EU と FAO との間で密約があり、FAO Investment Center [FAO-IC] に委託依頼

が存在している可能性が考えられる。)

### (2) 6月に来訪するFAO-ICミッションについて

6月に来訪するFAO-ICミッションについてMAFS政策計画局長(Janet Bitegeko)に知らされていなかったことも鑑み、MAFS次官に対しようした一連の動きを懸案する旨記載した文書をデンマーク大使館、DfID、アイルランド大使館、JICAの連名で提出することを決定した。

### (3) FAO-ICミッションが作成するAide Memoireの取り扱いについて

会合参加者は、「FAO-ICミッションが当地を離れる際にAide Memoireドラフトについて説明会を開催し帰国すると、それがあたかも関係者から承認されたようにFAO-ICが理解し、その実施をMAFS等に迫るのは適切ではない。」との認識で一致した。

## 調査団の分析

- ・日本を含むバイ・ドナーは、バスケット・ファンドを設立することで個別プロジェクトを推進する世銀およびFAO/EUらに対抗できると考える。
- ・日本はまた、世銀およびFAO/EUらに対抗するだけでなく、彼らとバイ・ドナーとの「仲介(仲裁)役」を担いつつ、オール・ドナーによる援助の実施を可能にする状況を創出しなくてはならない。この点については、確かに容易ではないと言えるが、これまで現地におけるドナー協調において日本が演じてきた役割そのものであり、世銀、FAO、EUらをドナー協調の輪の中に引き留めていく努力をせねばならない。

## 3) FASWOG タスクフォース会合

5月27日に行われたFAO/IFAD/世銀ミッション(FAO-ICミッション)の位置づけおよびAide Memoireの取り扱いについて協議した(別添資料2. 参照)。

日時 : 5月27日(火) 14時15分~15時30分

場所 : MAFS II 会議室

参加者 : ASDP 事務局 (Chacha Nyakimori, Philip Mbogela)、MAFS(Janet Bitegeko, S. Kaduma)、その他タンザニア政府関係者4名(ソコイネ大学)、FAO(Pierre Gence)、デンマーク大使館(Winther Olsen(臨時:実際のタイトルはASPSチーフ・プログラム・アドバイザー)、WFP(G. Stoppom)、GTZ(Andrea Jost)、日本大使館(伊藤書記官)、JICA タンザニア事務所(花谷企画調査員、Raymond Msoffe)、JICA-RADAG(佐々木、林、Exuper Mosh) (なお、EU、DFID、アイルランド大使館、世銀からは出席者なし。)

内容 : 1. National Food Security Policy ドラフトについて

2. 6月来訪予定のFAO/IFAD/世銀ミッションについて

3. Aide Memoireの取り扱いについて

1. National Food Security Policy ドラフトについて

MAFS から同ドラフトの作成状況に関する報告があった。ただし、ドラフトは配付されず作成の手順に関する説明が中心で、内容に関する説明はなかったため、コメントは特に出なかった。後日、ドラフトが配付されてから、関係者が具体的なコメントを出すことになった。

2. 6月来訪予定のFAO/IFAD/世銀ミッションについて

(MAFS) 現在自分の手元に6月来訪予定のFAO-IC ミッションの位置づけについてはっきりするよう求めたバイ・ドナー連名(JICA、DFID、アイルランドおよびデンマーク大使館による)の文書がある。同文書は、次の疑問を述べている。

「FAO-IC ミッションは、TARP II のために来訪するのか、それとも ASDP のためなのか。」「FAO-IC ミッション来訪の目的の一つが、タスク・フォース3のワーキング・グループ設立支援および今後の支援の検討にあるのではないか。」

この疑問について、タスク・フォース3の議長と協議を行った。その結果、タスク・フォース3の議長から次の回答を得たのでここに報告する。

「今回来訪するFAO-IC ミッションは、TARP II のためであり、ASDP のためではない。」「FAO-IC ミッションの団長を務める Guy Evers 氏が、タスク・フォース3のワーキング・グループ設立会合に参加する。」

(JICA) Guy Evers 氏のタスク・フォース3のワーキング・グループ設立会合への参加は、タスク・フォース3の議長自身による判断なのか、それともその他のタスク・フォース3のメンバーに確認した上での判断なのか。

(MAFS) その点については、「自分の個人的な判断による依頼であり、招待である。」と議長自身が述べていた。なお、議長は「今後は、事前に厳格にタスク・フォースのメンバーと協議の上、こうした決定を下すようにする。」と述べたことを付言する。

(JICA) Guy Evers 氏が、タスク・フォース3のワーキング・グループ設立会合へ参加する際の立場を知りたい。また、FAO-IC ミッションのTORにASDP支援に関する記載があるのかどうかについても知りたいのだが。

(ASDP事務局) Guy Evers 氏の今回の来訪の目的は、タスク・フォース3のワーキング・グループ設立支援ではないことを強調したい。ただし、彼のこれまでの経験および能力を評価して、「アドバイザー」という純粋な立場で会合に参加してもらうのだ。従って、ワーキング・グループ設立支援を目的とした特別なTORなどは存在しない。彼の「アドバイザー」としての参加については全く問題ないと考えている。

### 3. Aide Memoire の取り扱いについて

(MAFS) ASDP 枠組文書が承認されるまでは、Aide Memoire ドラフトの説明会（ラップ・アップ会合）は、FAO-IC ミッション現地滞在時におけるファインディングを報告し関係者と議論する場であった。ASDP 枠組文書が承認され、ASDP 事務局が設立された現在、Aide Memoire に記載されている事項を実施するもしないも ASDP 事務局がどう考えるかによるのではないかと、ASDP 事務局は今後をどのように考えているのか。

(ASDP 事務局) Aide Memoire に記載されている事項は、ASDP 実施プロセスにおけるガイダンスだと考えている。また、自分は Guy Evers 氏のような専門家がそのプロセスに必要なだとも考えている。

(FAO) Aide Memoire がこんなに話題となっていることに非常に驚いている。これまで Aide Memoire ドラフトの説明会も開催してきたのだが、一体 FAO-IC ミッションの何が問題なのだ。それに、FAO-IC ミッションが作成する Aide Memoire は、パイおよびマルチ・ドナーのミッションが作成する Aide Memoire と同様のものではないか。

(JICA) 現在話しているのは、ASDP 実施プロセスにおける FAO-IC ミッションが作成した Aide Memoire のことである。他のドナーのミッションが作成したものとは質が異なる。気になるのは、2 月および 4 月に来訪した FAO-IC ミッションが Aide Memoire を政府との合意文書のように捉え、MAFS 等にその内容の実施を迫るようになってきていることだ。

(デンマーク大使館) FAO-IC ミッションが当地を離れる際に開催する Aide Memoire ドラフトの説明会だけでは、はっきりしない内容も多い。

(FAO) ASDS、ASDP 策定プロセスにおいてはスムーズに物事が進んでいたのに、特に最近、ASDP 実施プロセスに移ってからなぜこんなにもめることが増えたのか。国際機関の一つとしてはっきり言及しておきたいが、他のドナーに隠すようなアジェンダなど持っているわけではない。FAO は政府からのリクエストに沿って支援を実施しているだけだ。

(JICA) こちらが知りたいのは、FAO-IC ミッションが政府との合意文書のように捉え、MAFS 等に実施を迫る Aide Memoire の位置づけのことなのだ。

(ASDP 事務局) 我々は、Aide Memoire を FAO-IC ミッションからのアドバイスおよび提言として受け取っている。その中で、我々が実施可能だと判断したものを実施しているに過ぎない。それに、我々は Aide Memoire の内容を変更することも可能なのだ。

(デンマーク大使館) 個人的には Aide Memoire は政府との合意文書ではないと思っている。そもそも最初に Aide Memoire という言葉を用いたのは世銀だったと思うが、

その内容が政府側のコンディショナリティになって、擬似公的なものに変化していった経緯がある。このような誤解を排除するためにも、いつそのことミッション・レポートなどの用語に代えた方が良いのではないか。

(FAO) Aide Memoire は、政府によって認可された文書ではないか。

(MAFS) しかし、だからといってその内容を全て実施する必要はないはずだが。

(FAO) ならば、ミッションの来訪に関するルールを作ろうではないか。もう、こんなめ事が続く状態はたくさんだ。もう一度言うが、FAO-IC ミッションの来訪は、全て政府からのリクエストによるものだ。それを確認した上でミッションの来訪にゴー・サインを出したのにも拘わらず、ミッションが来訪したら現地の関係者から認められなかったという事態に直面したのだ。このような事態の発生に非常に困惑しているし、大変残念なことだと思う。(ここで MAFS Bitegeko が話の途中で割って入り、次のように発言した。)

(MAFS) 我々は FASWOG タスク・フォースのメンバーであると同時に FAO ファミリーでもあるのだ。確かに FAO-IC ミッションの来訪は、政府からのリクエストによるものだ。しかしながら、最近の FAO-IC ミッションの来訪については、政府側にその旨が連絡されてから、当地に到着するまでの期間が非常に短いのだ。そのため、当地においてその情報が関係者間において共有されない。これまで行ってきたように、また今後もプロセスにおける透明性を確保する観点からも、関係者にそうした情報がきちんと事前に行き渡るべきなのだ。強調しておきたいが、全ての決定は FASWOG タスク・フォースという場を通じて成されなければならないわけではない。FASWOG タスク・フォースとは政府に対しアドバイスを行う機関であり、そのアドバイスに対し最終決定を行うのは政府である。

また、気を付けなければならないのは、全員に情報が行き渡ったかどうかを確認せず、一部の人間だけがその情報に基づいて先走った行動をとることである。情報共有をしながら、これからも共に活動しようではないか。

(JICA) 我々は Aide Memoire の位置づけのみならず、今後のバックストップ・ミッションの要請手続きについても考える必要があると思う。つまり、いつ、誰が、どんなプロセスで、どんな TOR に基づいてバックストップ・ミッションを要請するのか、ということだ。

(MAFS) バックストップ・ミッションの要請については、今後は各タスク・フォースがその必要性を決定することになるのだ。

また、焦点となっている Aid Memoire の取り扱いについて、私は今日その結論を出すことはしない。なぜなら、今日参加していない人たちも含めて全ての関係者にコンサルテーションしなければならないからだ。また、それが好ましい手続きだと思うからだ。

最後に、ドナー間の信頼に基づく活動実施のための環境をもう一度取り戻すため

に、ドナーおよび政府高官との更なる協議を個人的に続けていくこととする。

#### 調査団の分析

「ミッションの来訪に関してめ事が続く状態はたくさんだ。」と言う Gence FAO タンザニア所長を、MAFS Bitegeko 政策計画局長が「FAO ファミリー」という言葉を用いることによってその場を上手くとりまとめた。このような議事進行は、過去 2 年間 ASDS および ASDP のとりまとめの過程を通じて、タンザニア政府側にオーナーシップが確立されたことの証しであるとともにドナーの扱いにもなれてきたということである。他のドナーはどうあれ、日本はタンザニア政府のこのオーナーシップの意識とそれに基づく運営を支援していくことが望まれる。

会合時に何度も「関係者間の情報共有が重要である」との言及が成されたことから、この点について、調査団としてもこれまで以上に十分留意しながら活動を進めたい。

#### 4) ASDP タスクフォース 1 の立上げ会合

県レベルの投資について仕組みをつくるタスクフォース 1 の立上げ会合に RADAG (佐々木) が参加した。概要は以下のとおりである (収集資料 4. 参照)。

日時 : 5月14日(水) 9:00-13:00 Launching (ダルエス)

5月15日(木) 9:00-16:00, 5月16日(金) 9:00-14:00 (モロゴロ)

場所 : KILIMO 1(14日)、Tanesco Conference Center (15, 16日)

主な出席者 : Prof.Kundi (Facilitator), Mr.Msingi (PO-RALG), Ms.Bitegeko (MAFS), Mr.Fleming(DANINDA), 花谷企画調査員 (JICA)、佐々木 (JICA-RADAG)

##### 1. ワークショップの概要

###### 初日 (14日)

- ・MCM の PS からキーノートスピーチがあった。(MAFS 次官不在のため)
- ・ASDP の概要に関する概要の説明があった。途中停電となり、続きはモロゴロに移動してから続行することになった (結局、あとはモロゴロでもやらなかった)。

###### 2日目 (15日)

- ・Taskforce(TF), Working Group(WG), Formulation Teams(FT) の 3層構造にすることの是非を議論した。了承された。
- ・TF1 の TOR について、3つのグループに分かれて議論した。一部修正して了承された。
- ・TF1 の下には、二つの WG を置くことで合意した。(当初は3つで合意したが、後で DADP の 1年目のレビューに関する WG と、DADP ガイドラインの修正に関する WG を統合することにした) 3。

WG1: Implementation of DADPs to Prepare FY 03/04 Budget and Improvement of LGA Planning for Agricultural Investment



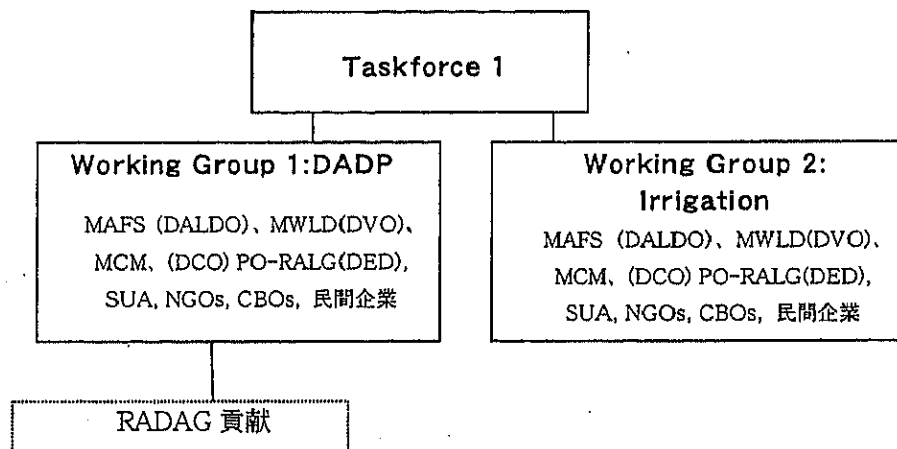
## WG2: Irrigation Development

### 3日目(16日)

- ・WGのTORについて議論した。一部修正されて承認された。

### 2. 決定された主な事項

- TFは3ヶ月に1回開催されることになった。TFはWGが作業して作成したレポートのレビューと承認を行なう。したがって実質的には、WGが作業を行なうことになる。
- WGのメンバーは、MAFS (DALDO)、MWLD(DVO)、MCM、(DCO) PO-RALG(DED)など、農業関係4省の県レベルの役人から1人づつ出して、あとはSUA, NGOs, CBOs, 民間企業の代表者などで構成される。
- WG1に先立ち、RADAGに主にコースト州の県を回ってDADPの策定プロセスをレビューさせて分析作業を行ない、DADPガイドラインの見直し作業に貢献させたい、とJICA花谷氏が会議の場で発言した。これに対して、Mr.Msingi(PO-RALG), Ms.Bitegeko(MAFS)とも、TF1の作業と何の矛盾もないとして同意した。



### 調査団の分析

TF1の会議の場で、RADAGの活動が公認されたことは大きい。なお、WG1は、いくつかの県を視察して、DADP1年目の作成状況から知見を得て、DADPガイドラインを修正することになっているが、それだけの時間がとれて作業できるか疑問である。したがって、RADAGでそれらの作業を実質的に代行して、DADPガイドラインの修正版完成に道筋をつけることを目指す。

### (2) 関係者の投入実績

ASDPフェーズII実施の仕組みの立上げや各種懸案事項の解決に向けてJICA事務所は積極的に会議のリードを行っている。また会合の前後では、プロセスの円滑化に資するよう、メールや電話等で、関係ドナー間の調整を積極的に行っている。他ドナーは新たな実施体制

でドナーの影響力を確保すべく様々な動きを行なっている。

調査団は前記 JICA 事務所の動きを支援すべく、FASWOG 会合及び ASDP タスクフォース 1 の立上げ会合に出席して意見を表明した。FASWOG 会合の出席と議事録作成に本邦調査団 2 名とローカルスタッフ 1 名を、それぞれ 2～3 日づつ投入した。さらに、ASDP タスクフォース 1 の立上げ会合への出席と事前準備、議事録作成、関連文書の分析に、本邦団員 1 名を約 1 週間投入した。

### (3) 来月の予定

FASWOG 会合に出席していくとともに、ASDP タスクフォース 1 の第 2 回会合では、DADP ガイドラインの概要のプレゼンを行なう予定である。また、保健、教育、農業の 3 セクターにおけるセクター・プログラムのファイナンスの経験を共有するセミナーの開催準備を進め、その開催を他ドナーと協力して実施することにより、ドナー間の不信間解消に貢献していくことを目指す。

## 3-2. 作成された DADP の入手と分析（コースト州 6 県、及び他ドナーが支援した各州）

### (1) 進捗

DADP の作成・選定・実施を実質的に取り仕切る PO-RALG は、今年度の DADP を 114 県全てから提出させることに成功した（収集資料 5.）。また、予算配分の基準や、事業の選定基準も設定して、配分予算額を決定して県に通知した（収集資料 6.）。RADAG は、そのうち、コースト州内の 6 県の DADP を入手して、実地訪問に先立つ分析作業を行なった。また、RADAG として作成を支援したコースト州以外に、他ドナーが支援を実施してきた州で作成された DADP を入手した（シニャンガ州、モロゴロ州、ムベヤ州、イリンガ州）。

### (2) 調査団の活動方針に関する検討

JICA 現地事務所とも協議の結果、調査団は以下の観点から調査を行なうことにした。

#### (ア) DADP 作成 1 年目のプロセスについての情報収集・分析

以下のような観点から今年の DADP 作成プロセスについて調査を行なう。また、調査で得た情報はタスクフォース 1 へフィードバックすることを目指す。

- 1) DADP ガイドラインは本当に複雑だったのか。ただ記入フォームが詳細だっただけではないか。
- 2) O&OD ではクロス・セクトラルで計画を立てることになるが、そこから出てくる県やワードの全体のニーズと、農業分野のニーズとの関係をどう整理できるのか。O&OD プロセスにおいて農業分野のニーズの汲み上げを行うには、どうしたらよいのか？

本 JICA 専門家のアイデアだと、村全体で行う O&OD で全体の問題分析を行ったあとに分科会に分かれるからそのときに、農業の分科会を作ればいいのではということだが、地元の人たちはどう考えているか？

- 3) O&OD と DADP の記入フォームの並列。O&OD で作成したものを、また DADP 記入フォームに書き直しているのか。
- 4) DADP は提出されたがどうやって実施するつもりか。アクション・プラン（実行計画）作りとその実施が重要だが、実施可能なアクション・プランが作れるのか。
- 5) お金を四半期ごとに流すことは可能か。（Mr.Msingi によると、教育、保健の SP でも PO-RALG が四半期ごとにお金を流して、四半期ごとに支出レポートを出させている経験があるから大丈夫だと話していた。）
- 6) DDP はローリングがいいのか。3年 FIX がいいか。DADP にも同じ問題がある。（これに対して、3年ローリングにして、2、3年目は軽くするという案に同意する、と応対）
- 7) DADP とは別にエクステンションにも四半期ごとにお金を流しているが、問題なく使われているかどうか聞いてほしい。
- 8) 作成の関係者、関係機関は誰であったか。

#### (イ) Community Development と DADP との整合可能性について

これまで多くの関係者が手間をかけて実施してきた参加型開発（住民組織化など）を DADP に反映させるためにはどのようにすれば良いかについて検討する。今年提出された DADP の 40%を灌漑プロジェクトが占めているが、DADP 作成プロセスにおける地域住民への働きかけはどうであったのか。確かに予算の付いた DADP プロジェクトは実施されるだろうが、これまで実施されてきたキャパシティ・ビルディングの面が無視されるのではないかと危惧している。DADP プロジェクトにおいては、これまでドナーが実施してきたプロジェクトとは異なり、地域住民のキャパシティ・ビルディングなどに手間をかけていられない状況となることが十分予想されるからだ。

#### (ウ) Rural Road の計画策定を DADP の一部として実施するという考えについて

JICA 現地事務所小林所員が確認したところ、TANROAD の所長は「Rural Road については DADP に入れ込んでも構わないのではないか」との個人的見解を持っている。もし正式にこのような考えが関係者間において認められるとすると、TF1 への貢献として正面から「農業の観点から道路整備を考える」調査活動が可能となるが現地ではそれが可能かどうか検討する。もちろん、その DADP における地方道路に関する資金については Road Fund Board から流れるよう交渉する必要があるが。

### (3) RADAG による当初の分析

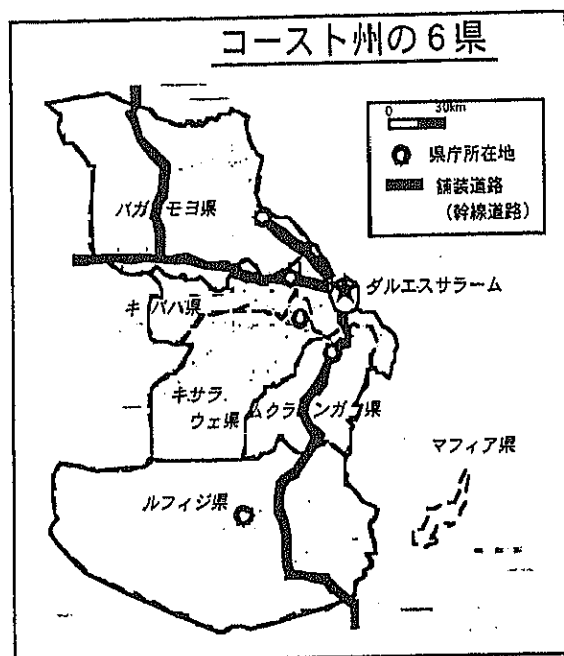
今月の活動で収集されたコースト州6県の DADP のとりあえずの分析結果は次ページのとおりである。今後、現地でのインタビュー活動を通じて、さらに詳細に分析を加え、DADP

ガイドラインの見直しと、適切な DADP 策定プロセスの実現に貢献することを目指す。

## コースト州 6 県の DADP レビュー結果

### 1. コースト州各県の位置

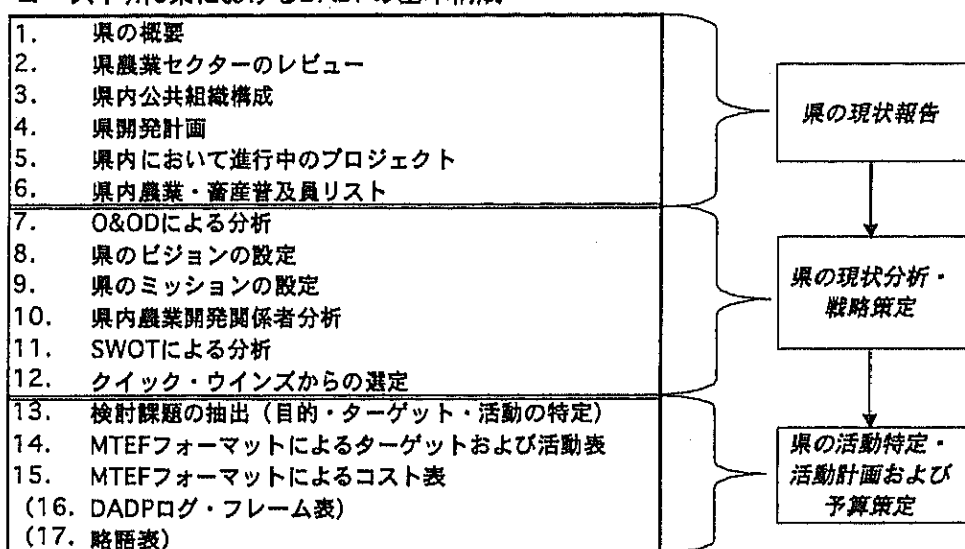
タンザニアにおけるコースト州 6 県の位置は、下図に示すとおりである。



### 2. DADP の基本構成

コースト州 6 県から提出された県農業開発計画 (DADP) <sup>4</sup>を分析し、判明した基本構成を下図表に示した。その基本構成は、下図表右に示したように、大きく 3 つに分けることが可能であった。つまり、まず県の現状を報告し、続いてその分析そして O&OD<sup>5</sup>や SWOT<sup>6</sup>といったツールを用いて県農業開発計画の策定を行い、最後にその計画に基づいた活動 (プロジェクト) を特定し、その計画および予算策定を行うといった一連の流れを観察することができた。

### コースト州6県におけるDADPの基本構成



注1：県によって記載項目の順番が多少異なる。

注2：1県のみが記載した項目については ( ) で括った。

なお、県の現状分析・戦略策定のセクションにおける各県毎の開発計画策定ツールについては以下のとおり。

コースト州6県のDADP策定手法

県名	バガモヨ県	キバハ県 (都市部)	キバハ県 (地方部)	キサラウエ県	マフィア県	ムクランガ県	ルフィジ
O&ODによる分析		○	○	○			
SWOTによる分析	○	○	○	○		○	○

注：県がO&ODおよびSWOTの両方をDADP策定手法として用いており、そのどちらかの使用に重点を置いた傾向が見られる場合には、◎(重点的に使用)と区別した。

DADP 策定において、コースト州 6 県のうち、キバハ県（都市部および地方部）、キサラウエ県が O&OD および SWOT の両方を用いたが、どちらかを重点的に使用したため、二つのツールの使用における混乱はなかったと判断できる。

また、全体的にコースト州6県の開発計画の内容に曖昧さが残ることは指摘できるものの、SWOT を開発計画策定ツールとして重点的に使用もしくは使用した県では、他県と比べて比較優位性があると考えられる分野を開発計画の内容に取り入れる傾向が見られた。一方、O&OD を重点的に使用したキバハ県（都市部）の開発計画の内容からは、県の外部環境に注意を払うことは少なく、主に県の内部環境に重点を置く傾向が観察された。

なお、コースト州 6 県の DADP に記載されたビジョン、ミッション、O&OD および SWOT の共通項目である「機会」、代表的なプロジェクトは下記の表のとおりである。ただし、後述するよう、開発計画の内容が曖昧なままであること、および過去の参加型計画手法により挙げられたプロジェクトがそのまま流用されていることから、開発計画とプロジェクトとの関連性が分かりづらいことが全体的に観察されたことを付言する。

コースト州6県のビジョン・ミッション・「機会」・プロジェクト

県名	バガモヨ県	キバハ県 (都市部)	キバハ県 (地方部)	キサラウエ県	マフィア県	ム克蘭ガ県	ルフィジ県
ビジョン	-	-	Kibaha District Council believes that all people were born not to be poor, still there exist poor people in Kibaha District. This people have become poor in situation and condition, which are under human control. The District Council therefore through Agricultural and Livestock Development department can facilitate farmers and pastoralist to alleviate their poverty and raise their life standard through opportunities that exist within farmers' environment.	A competent, efficient, well managed District office can deliver timely and desirable services to its stakeholders timely	To have a development social economic and prosperous District Council	-	To have an efficient and well managed district agricultural office that can offer quality, timely and effective services in order to attain food self sufficiency and increased income
ミッション	-	-	Our mission therefore is to provide agricultural technical advice and assist the farmer to use the advice fully. This can be achieved through: 1. Transferring of innovation from agricultural research and elsewhere to farmer by extension methodology and PRA; 2. Assisting the farmers in availing the necessary inputs; and 3. Facilitating farmer to market their produce.	An Extension Service system that can increase the earning capacity of the farmers and establish food self-sufficiency	To enhance social economic development of Mafia District Council through the provision of efficient and effective social services, extension services, economic infrastructure services and good governance	-	To offer efficient and effective agriculture, livestock and cooperative extension services
O&OD および/ もしくは SWOT における 「機会」	1. Adequate and productive land for livestock and agriculture 2. External and internal markets for both livestock and agricultural products 3. Strong co-operative infrastructure 4. Interested development partners, e.g. donors and NGOs 5. Positive attitude of the communities to development plans and implementation 6. Satisfactory communication network 7. Bimodal rainfall pattern	(O&OD) 1. 450 square kilometers of arable land 2. 300 square kilometers for Pasture Development 3. 50 square kilometers of agricultural commercial area 4. A market for small scale horticultural producers 5. 60 active cooperative societies 6. TANITA Industry providing markets to cashew producers and creating employment to 50 community members 7. Good road network which are passable throughout of the year 8. Existing of credit facilities 9. Donor agencies (JICA) who support horticultural project 10. Agricultural sectoral community plans developed through O&OD 11. One stallion 12. Community members with strong endeavors in poultry industry 13. Ruvu River providing water for irrigation and fishing activities 14. Livestock supporters such as HPI and REPCA (SWOT) 1. Cooperative 2. Accessibility to the road 3. Market available 4. NGO available	(O&OD) No "Opportunity" identified (SWOT) 1. NGOs 2. Near Dar es Salaam market 3. Fertile land 4. Rainfall seasons 5. Near International Airport 6. Ruvu River	1. Adequate and suitable land for farming 2. Adequate family labor 3. Proximity to Dar es Salaam Market (Kariakoo and other markets) 4. Close to International Airport that can facilitate transportation of farm products outside the country	-	1. Available arable land 2. Rivers crossing lands suitable for irrigated agriculture 3. High water table on low lying basins 4. Permanent natural ponds 5. Production potential of cashew nut, cassava, tropical fruits 6. Potential livestock production 7. Nearer Dar es Salaam market 8. Potential irrigated agriculture 9. Possibilities of diversifying agriculture for more nutrition	1. Feeds and building material locally available 2. Chickens and eggs market available 3. Clear agriculture policy 4. Clear wildlife policy 5. Soil conducive for various crop production 6. Abundant land available 7. Various economic enterprises presented 8. Potential market/demand for input available 9. Existence of various groups and individuals involving in execution of various economic and social activities
DADPに記載された主なプロジェクト	1. Cashew nut production 2. Livestock (meat and milk) production 3. Disease control 4. Dam construction 5. Rabies control	1. Cashew nut production 2. Livestock (chicken and egg) production 3. Disease control	1. Cashew nut production 2. Rice production 3. Disease control 4. Establishing new SACCOs	1. Vermin control 2. Local chicken improvement 3. Improving old SACCOs and establishing new ones	1. Poultry improvement 2. Cashew nut rehabilitation 3. Rehabilitation cattle dip 4. Coconut rehabilitation 5. Establishing new SACCOs	1. Cashew nut production 2. Establishing new SACCOs	1. Disease control 2. Reducing pre- and post- harvest losses 3. Improving old SACCOs and establishing new ones

最後に、コースト州6県から提出されたDADPにおける記載項目の一覧表を記す。

コースト州6県のDADP記載項目一覧表

項目/県名	バガモヨ県	キバハ県 (都市部)	キバハ県 (地方部)	キサラウエ県	マフィア県	ムクランガ県	ルフィジ県
県の概要							
・ロケーション	○	○	○	○	○		○
・県の大きさ	○	○	○	○	○	○	○
・県内の行政区分	○	○	○	○	○	○	○
・自然環境	○	○	○	○	○	○	○
・人口	○	○	○	○	○	○	○
県農業セクターのレビュー							
・農業	○	○	○	○	○	○	○
・畜産	○	○	○	○	○	○	○
・漁業					○	○	○
・総合	○		○	○		○	○
・水資源(水供給・井戸・ダム)	○	○	○	○		○	○
・自然資源				○		○	○
・手工芸品						○	○
・土地(土地利用および森林地域の記述を含む)	○	○	○	○	○	○	○
・延滞施設	○					○	○
・貯蔵およびマーケティング施設	○	○	○	○		○	○
・移動およびコミュニケーション手段	○	○	○	○	○	○	○
・公共事業(道路)			○			○	
県内公共組織構成	○	○	○	○	○	○	
県開発計画		○	○	○	○	○	○
県内において進行中のプロジェクト		○		○	○	○	○
県内農業・畜産普及員リスト	○	○	○	○			○
O&ODによる分析		○	○	○			
県のビジョンの設定			○	○	○		○
県のミッションの設定			○	○	○		○
県内農業開発関係者分析	○		○	○			○
SWOTによる分析	○	○	○	○		○	○
クイック・ウインズからの選定		○		○		○	
検討課題の抽出(目的・ターゲット・活動の特定)	○	○	○	○	○	○	○
MTEFフォーマットによるターゲットおよび活動表	○	○	○	○		○	○
MTEFフォーマットによるコスト表	○	○	○	○		○	○
DADPログ・フレーム表							○
略語表							○

### 3. DADP 策定による成果

コースト州6県におけるDADP策定による成果と考えられる点は、以下のとおりである。

- (1) O&OD や SWOT といったツールを用いて県農業開発計画の策定を検討した点
- (2) 6 県中 4 県で、3 件から 4 件の少数の実施可能だと考えられるプロジェクトの特定を行った点
- (3) 県政府内の人材、自然環境、活動中の NGO など、県内における農業開発のためのリソースに注意を払った点
- (4) 他県と比べて比較優位性があると考えられる分野に言及している点
- (5) クイック・ウインズとして挙げられている活動内容を理解し、プロジェクトの選定を行った点

### 4. DADP 策定における課題



コースト州 6 県から提出された DADP の策定において課題と思われる点は、以下のとおりである。

- (1) 項目がただ羅列されているだけで、各項目間の関連性が見えづらい点
- (2) O&OD や SWOT といったツールを用いた県農業開発計画の策定が十分に吟味されておらず、その内容が曖昧なまま終わってしまっている点
- (3) 過去の参加型計画手法により挙げられたプロジェクトをただそのまま流用しているために、そのプロジェクトの必要性が分かりづらい点
- (4) 詳細なプロジェクト内容の検討が行われず、曖昧なまま終わってしまっている点

#### **5. DADP の内容改善に関する提言**

コースト州 6 県から提出された DADP の内容をレビューし、その改善に向けた提言を以下に記した。

- (1) DADP 策定プロセスにおいて、参加型計画手法において注視しがちな県内の現状を確認するだけでなく、「県外から」県の現状を見るというプロセスが必要であることを改めて強調する必要がある。
- (2) DADP 各項目間に関連性を持たせるためには、県の農業開発計画のストーリーの構築が重要である。(そのためにも、O&OD や SWOT といったツールを用いた開発計画の策定の十分な吟味、県農業開発におけるビジョン、ミッションの作成が重要となる。その上で、参加型計画手法により村々から挙げられたプロジェクトを、県が検討するプロセスが必要である。)
- (3) DADP 策定ガイドラインの読み手に、O&OD や SWOT といった開発計画策定ツールにおける用語をさらに分かり易く伝える必要がある。
- (4) 現在の県で計画・実施・モニタリングおよび評価できるプロジェクト数を、県の農業開発計画のストーリーの中で再検討する必要がある。

(終)

#### (4) 関係者の投入実績

DADP 入手のための PO-RALG のムシング局長との会合、入手した DADP のコピーとチェックを経て、分析作業と当初の提言のとりまとめに本邦調査団員2名とローカルスタッフ1名を約1週間投入した。

#### (5) 来月の予定

6月は、コースト州内6県（キバハ県、キサラウェ県、ルフィジ県、ム克蘭ガ県、バガモヨ県、マフィア県）を訪問して実地でインタビューを行なう予定である。なお、その後、必要に応じて第二回目の6県訪問を行い、各県において DADP の策定プロセスについて調査し分析結果をまとめる段階まで進めたいと考えている。

### 3-3. ASDP M&E ワーキング・ペーパーの検討と提案作成

#### (1) 進捗

ASDP の見直しを委託された FAO-Investment Center が作成した ASDP のモニタリングと評価 (M&E) に関するワーキング・ペーパー第2版が提出されたので、その検討と改善のための提案を作成した（収集資料7、参照）。同ワーキング・ペーパーは、第1版の段階で JICA 及び調査団からコメントを出していたが、そのコメントがよく反映された修正内容となっていた。JICA 及び調査団の指摘とは、セクター・プログラム全体としてのマクロの目標と、個別活動のミクロの活動結果をつなぐ中間の論理構成やそれに基づく指標が不足しているという指摘であった。その指摘を正面から受け入れた修正ではあったが、まだ不十分であると思われたため、JICA 及び調査団で再度のコメント提出を行なった。これに対して、FAO-Investment Center からは、指摘に感謝し、6月の現地入りの際にさらによく協議したい旨の連絡があった。

#### (2) 関係者の投入実績

提出されたワーキング・ペーパー第2版の吟味とコメント作成のために、JICA 現地事務所の担当者及び調査団から各1名ずつ、それぞれ約4～5日の活動日数の投入と、複数回の協議が開催された。なお、他のドナーからは特にコメントが提出されておらず、特段の投入はなかったものと思われる。

#### (3) 来月の予定

6月は、同ワーキング・ペーパーの作成を担当した FAO-Investment Center のニック・チャップマンが来タする予定であり、提出したコメントに基づいて協議する会合が設けられる予定である。

### 3-4. ASDP の進め方に関する関係者からの意見聴取

#### (1) 進捗

5月は、2003年度最初の活動の月ということもあり、ASDP及びDADPの今後の進め方を探るため、主要な関係者にヒアリングを実施した。主なヒアリング実施者は、1) ビテゲコ・MAFS政策計画局長、2) ムシンギ・PO-RALG局長、3) クンディ教授(ASDPタスク・フォース1のFacilitator)、4) アマニ教授(ESRF)である。

#### 1) ビテゲコ・MAFS政策計画局長

Ms.Bitegekoから信頼を得ているRADAGは、コースト州での活動計画にも理解を得た。また、全ての県に均等にばらまくよりも、Viable, implementable, sustainableなプログラムを提案してきたら、お金をつけるということにしたいとのこと。後掲のムシンギ氏とは微妙に違うコメント。また農業背景調査に言及して再び高く評価していた。

日時 : 5月23日(木) 11時00分~12時00分

場所 : MAFS政策計画局長室

面談者 : Ms.Bitegeko (Director of Policy and Planning, MAFS)  
佐々木、林 (JICA-RADAG)

議題 : 本フェーズのRADAGの活動と、DADPガイドラインの修正方向について

会議の背景 : 今年度初の表敬訪問。RADAGの直接のカウンター・パートであり、本フェーズにおけるコースト州訪問のTORを説明するために訪問した。

#### 1. RADAGのコースト州訪問に関するTORについて

特段問題ないとのこと。あとは正式なルートでの提出を待つとのこと。

#### 2. DADPガイドラインの修正作業について

RADAGでプレリミナリーな作業をすることについて同意を示した。WG1→TF1→ASDP Secretariatとそれぞれの段階で少しずつ修正されて承認されていくものを出したいと思うと説明したところ、理解を示した。なお、Participatory Approachで村人まで巻き込むことが重要だということを強調していた。

#### 3. DADPの第1年目の試行について

残念に思ったことは次の3点とのこと。1) 内容がまだまだ不十分なこと、2) Participatory Approachを行なう時間がなかったこと、3) そのためのリソースもなかったこと。

2年目は、キャパビルをして、Participatory Approach を適用したい。計画策定のプロセスに十分な注意を払うことが必要だ。また、全ての県に均等にばらまくよりも、Viable, implementable, sustainable なプログラムを提案してきたら、お金をつけるということにしたいとのこと。RADAG として、そのアイデアを DADP ガイドラインの修正にもできるだけ生かしたいと応じた。

#### 4. その他

- ・RADAG が実施した農業背景調査は高く評価している、その中で書かれた提言を利用したとのこと。
- ・IFAD/FAO/WB のミッションについて、I don't want to accept と愚痴をこぼしていた。

## 2) ムシンギ・PO-RALG 局長

ムシンギ局長は、県による DADP の作成と提出、及び配分予算の決定を一人で管理した人物である。また、本会合において、提出された DADP を借りたいと調査団が打診したところ、114 県全てに関する貸出を許可してくれた。

日時 : 5月22日(木) 10時00分~11時00分

場所 : PO-RALG ダルエスサラーム事務所

面談者 : Mr. Musungi (Director of Regional Coordination, PO-RALG)  
藪田、佐々木、林 (JICA-RADAG)

議題 : 第1年目の DADP の提出状況と DADP ガイドラインの修正方向について

収集資料 : Appraisal Report of District Agricultural Development Plans for Financial Year 2003/04

Annex 1: Requested Funds by Councils Before Scrutinisation (50 billion)

(Annex 2: Fund After Scrutinisation (11 billion)は別ルートで後日入手)

### 1. DADP 提出に関する事実関係

- 114 県が DADP を提出してきた。
- 予算のディスパースメントの手続きも問題ない。我々には教育セクター、保健セクター、道路ファンドでの経験があるからだ。
- 今年度は政府予算だけの配分だが、ドナーが県を直接支援した場合には、その支援分を、各県への配分額から差し引く方式を取る。

### 2. DADP 提出、選定、予算配分のプロセス

#### DADP の承認の流れ

- (1) まず各県から DADP を出させた。その結果、合計額が 50 billion Tsh. になった。
- (2) 次に、PO-RALG で用意した公式に基づいて、各県への配分のシーリングを決定

して、各県へ通知した。(合計 11billion Tsh,とした。)

(3) 各県では、通知されたシーリングの中で、実施したいプロジェクトを選ぶことになっている。

#### 今後の流れ

(4) 各県は、認められたプロジェクトに従ってアクション・プランを作ることになる。

(5) アクション・プランに従って実行する。

(6) 各県は、四半期ごとにレポートを提出してくる。その提出をもって次期の予算を配分する。

ただし、11 billion Tsh.は国会で承認される必要があり、その金額が認められるかどうかは不透明な部分もある。

### 3. DADP 策定の改善

#### 県レベルについて

—適切な時期と時間を与える必要がある。

—適切な方法を用いる必要がある (O&OD)。

—そのためには次のキャパシティビルディングが必要である。(1) DADP や ASDP の意義や内容について人々に認識させる。(2) O&OD の適用の仕方について訓練する。

#### 州レベルについて

—州の監督や指導が重要である。そのためのワークショップも開催したい。(3月に予定されていた州レベルにおけるワークショップは開催されずじまいであった。)

### 4. その他

RADAG のコースト州での活動に関する TOR 案を提示した。特に問題なし。RADAG で事前に調査して、DADP の作成プロセスの検証や DADP ガイドラインの簡素化の作業を進め、正式にその作業を行なうことになっている TF1 の WG1 に提出することについても内々に承認。ただし、コースト州に加えて、シニャンガ州も訪問したらいいのではないかと提案された。同州の主な農産品は、家畜(羊など)やコットン。Musingi 氏の出身地とのこと。

### 5. 資料貸与について

(1) DADP の承認の流れについて Musingi 氏がまとめた文書を借りた(コピーを取って返却した)。

(2) 114 県の DADP を全て借り出すことを許可された。当日は、コースト州 4 県、シニャンガ州 8 県の DADP のみを借り出してコピーを取ることにした。

### 調査団の分析

各 DADP の内容はさておき、とにかく全 114 県が提出してきた。これは、彼の手腕によるところが大きいと調査団では評価している。なお、申請額を合計すると予算額の 5 倍の 500billion Tsh.。そこで、人口、家畜数、耕地可能面積、灌漑可能面積などの基準で各県へ

の配分額を決めて、予定どおり 110billion Tsh.にしたとのこと。各県は通知された予算額の中で好きなプロジェクトを選定したとのこと。タンザニアに生きる平等主義が、競争を通じてメリハリをつける配分思想に勝ったと言えるのではないだろうか。

### 3) クンディ教授 (タスクフォース1の Facilitator)

同教授は、DADP の1年目の実施状況の分析と DADP ガイドラインの修正を行なうことになったタスクフォース1の下のワーキンググループ1のファシリテーターである。とてもいいオープンマインドの信頼できる感じの人。「参加型」と「ビジネス戦略」のあつれきについては、ダルエス大学の経営でも起こっていることだとして、「Participatory Approach Guided by Business Strategy」という新思考はどうだ、と提案された。

日時 : 5月22日(木) 14時00分~16時00分

場所 : Professor Kundi の部屋

面談者 : Professor Kundi, University of Dar es Salaam

佐々木、林 (JICA-RADAG)

議題 : DADP ガイドラインの修正方向について

訪問の背景 : TF1 の下に設置された2つのタスクフォースのうちの一つで、DADP の1年目の実施状況の分析と DADP ガイドラインの修正を行なうことになった。Kundi 教授は TF1 の Facilitator に就任しており、今後 DADP 作成やガイドライン修正についても影響力を増すと思われる。したがって今回、個別の訪問を実施した。

冒頭、RADAG が持参した DADP ガイドラインを手渡してさっと読んでもらった。そのあと、議論を開始した。

(Kundi 教授) とても複雑なので (complicated)、シンプルにするべきだ。また、記入フォームに注力すべきだろう。一番の問題は SWOT 分析で、それで特定された問題を解決するのはとても難しい。かわりに Log-Frame を用いた方がいいだろう。つまり、Ward/Village レベルで作成したプランを集合させると District Plan になるという考え方だ。一方 Resource Ceiling が上から設定されてくることになる。基本的なコンセプトは、参加型アプローチがとても重要だということだ。

(RADAG) とても複雑だということには同意する。このガイドラインはもともと別のコンサルタントが作成したものを JICA-RADAG で加筆したものだ。言わば二つのアプローチを合体させたものだ。もともとのガイドラインは極めて純粋に参加型アプローチで貫かれていて、ASDS/ASDP で決めた政策枠組を無視した内容となっていた。一方、ASDS/ASDP の基本的な考え方は市場メカニズムに基づく農業開発ということで、参加型とは別の考え方である。

もともとのガイドラインがドナー・グループによって否定されたあと、JICA-RADAG で、市場メカニズムに即したビジネス戦略というアプローチを書き足して承認に持ち込

んだのだ。この参加型アプローチとビジネス戦略のアプローチの衝突は、もっとも新しい問題であり、今私たちは世界の最前線の議論をしていると思う。

(Kundi 教授) なるほど、よく分かる。最近、ダルエス大学でもコーポレート・ストラテジー<sup>7</sup>をマネジメント層が作成してミッションやアウトカムを決めた。その一方、各学部の教授会では教授や職員のニーズを参加型で積み上げていく。どう折り合いをつけるのかはまだ考えられていない。ではこれはどうだ、「Participatory Approach Guided by Business Strategy」。

(RADAG) とてもいい考え方だと思う。例えば、参加型アプローチで我が村にはコーヒーの生産余地がある一方、それを行なう技術がない、したがってキャパビルが必要だというロジックをたてたとする。しかし、周りの村でも同じようなロジックを立ててコーヒーの増産に走ったら、コーヒー価格が下落して、全ての村が貧しくなってしまう。この場合、外部の様子をよく見て、周りの村がコーヒーの増産に走るなら、我が村ではそれを原料としたコーヒーの加工に重点を置くという戦略が取られるべきだろう。ただし、その戦略も農民の参加のもとで決められて実行されなければ実現しないわけだ。教授の考え方はぜひガイドラインの見直しに反映させたい。

(Kundi 教授) それからベストプラクティスを豊富に入れるべきだ。また概念よりも、プロセスの進め方を十分に記載すべきだ。

(RADAG) 分かった。DADP の現物を借りることができることになったので、ベストプラクティスを入れたい。なお、RADAG で事前に調査して DADP 1年目の経験やガイドラインの仮修正の作業を行い、その結果をTF1のWG1に提供したいと思っている。そして、WG1→TF1→ASDP タスクフォースや FASWOG と上がっていった承認されていけばいいなと思っている。また、コースト州の各県を実際に訪問して策定プロセスについても詳しく調べる予定だ。

(Kundi 教授) 期待している。

このあと、必要が発生した場合には、ローカル・コンサルタントとして雇える人を紹介して欲しいと打診して、了承を得た。

---

Professor B.A. Kundi: Department of Engineering and Entrepreneurship, College of Engineering and Technology; 0741-350078, 0744-385453; kundi@udsm.ac.tz.

#### 調査団の分析

クンディ教授はとてもオープン・マインドであり、さらに発想も柔軟であるという印象を受けた。ガイドラインの修正のおおまかな方向性に関するアイデアを得ることができた。

#### 4) アマニ教授 (ESRF)

ESRF のアマニ教授との意見交換。再び地方道路の整備の重要性について力説。また、Land

Act に関して、農民と Livestock Keeper の関係についても解説。必要に応じて優秀なローカルスタッフを紹介してくれることにも合意。地方出張にも同行するスタッフを供給できるとのこと。

日時 : 5月23日(金) 14時30分~16時00分

場所 : ESRF Professor Amani の部屋

面談者 : Professor Amani, ESRF

藪田、佐々木、林 (JICA-RADAG)

議題 : DADP ガイドラインの修正方向について

訪問の背景 : 冒頭、RADAG が持参した DADP ガイドラインを手渡してその基本的な考え方を説明した。

### 1. DADP ガイドラインについて

(RADAG) このガイドラインは、当初ウガンダの Mcpherson Consultant が作成したが、それがドナー・グループに受け入れられなかったために、JICA-RADAG で書き足したものである。したがって複雑になっている。基本的な考え方は、もともとのガイドラインの純粋な参加型アプローチに、ASDS/ASDP が目指した市場メカニズムに基づくアプローチとしてビジネス・プランの考え方を足したものである。ただし、両者の折り合いをどうつけるべきかが問題である。

(Amani 教授) わかった。ビジネス・プランか。参加型アプローチによりインプットが特定されるが、全てのインプットは統合される必要がある。その統合をするのがビジネス・プランと考えればいい。そしてビジネス・プランでプライオリティをはっきりとつけるのだ。プライオリティづけによって、Some happy and some unhappy となるが、もともと Win-win situation はあり得ない。なお、参加型アプローチは、世銀が、現場を Cool it down するための方便でもあり、そのアプローチによって出てくるものは、人々のニーズであり、解決策ではない。それに自らのリソースを考慮に入れたものでもない。

### 2. 地方道路の整備計画について

(RADAG) 以前議論したとき、農業開発のために何が最も必要だと思うかと聞いたら、あなたは道路だと力説していた。最近、TANROAD の人が、地方道路の整備のプライオリティづけや計画づくりは DADP の中でやってもらい、予算は道路ファンドなどからつけるのがいいのではないかと提案する人がいると聞く。どう思うか。

(Amani 教授) 今でも道路が重要だと考えている。マーケットにアクセスするにも道路がなければならない。地方道路整備も農業に dictate されるべきである。

(RADAG) じつは RADAG にも道路の専門家が配置されており、彼が DADP の枠内に統合した形での地方道路の整備計画策定について考えている。来たら、意見交換に来るだろう。



### 3. 土地関連法について

(RADAG) 土地に関する法律が重要だと聞いている。土地私有に関する明確な法律がないのが農業開発を妨げてきたと言われており、東京の会議でもそういう指摘があった。

(Amani 教授) Large scale farmer にとっては重要だろう。ある日、権力者が来てここは国の土地だからどけと言われて没収されてしまうことを今でも恐れているだろう。したがって土地の私有と登記制度を法律で保障することは、農業開発にとって重要だ。また、土地を担保にお金を借りることができるので投資も進むだろう。

一方で、Small-scale farmer は気にしていないだろう。近所との関係が安定しており、法律があってもなくても自分が耕している土地は変わらない。また、小農がお金を借りるとすればマイクロ・クレジットからだが、マイクロ・クレジットは土地を担保にしない。

ただし、一度、マーケットが出来て取引が始まると、土地もマーケットで取引されるようになるだろう。

(RADAG) 土地私有に関して、Livestock Keeper との関係はどうか。

(Amani 教授) じつはそれは土地私有の問題ではない。農民および Livestock Keeper には法律で決められた土地がある。Livestock Keeper は、その中で水や飼料が確保できている限りは、農民の土地を横切ることはない。彼らは水や飼料が確保できなくなって、それが確保できる場所まで移動する際に、農民の土地を横切るので。一方農民は、農地拡大のために Livestock Keeper の土地に進出することになる。問題は行政がそうした法律の存在を無視して、何ら取り組みを行っていないことである。したがって、水や飼料および土地の安定的な確保に関する「ベスト・プラクティス」の導入がもっと図られるべきで、それが解決策だ。

### 4. キャパシティ・ビルディングについて

(RADAG) 地方政府の職員のキャパビルは重要だとよく言われるが、どう考えるか。

(Amani 教授) それは重要だろう。ただし、事業を実際に実践してみるのが一番のキャパビルである。

(その他)

Amani 教授は、DADP ガイドラインをよく読んで、あとでメールでコメントしてくること。また、必要が生じた場合に、ESRF から優秀なローカル・コンサルタントを紹介してほしいと調査団から依頼し、快諾を得た。その後、ESRF の資料室に行き、先日 JICA から紹介された資料を購入した (Wangwe, S.M. (ed.); NEPAD at Country Level - Changing Aid Relationship in Tanzania)。

## 3-5. その他の活動

### (1) バスケット・ファンド設置の手続きに関する調査と実際の立上げ支援

ASDP 事務局の下で、バスケット・ファンドの立上げを検討するワーキング・グループを結成することが検討されている。一方で、以前 ASDP Financial Advisor Group を通じて一旦策定されたバスケット・ファンドのフローの仕組みに関する文書が、現在の ASDP 文書からは落ちている。したがって、調査団としては、要請があれば再び検討グループに参加し技術的な貢献を行ないたいと考えている。

援助資金量が巨大なマルチ・ドナーが独自のプロジェクトに走ることに対抗するためにも、バイ・ドナーが結集してバスケット・ファンドの設置に注力していくしか対応する術はない状態である。

今後、保健セクター、教育セクターのバスケット・ファンドの運営担当者から経験を聞き、具体的な立上げ作業スケジュールを作成する必要があるだろう。また、以前作成したフローの仕組みの文書をもう一度見直す必要があるだろう。調査団は、上記ワーキング・グループへの投入も視野に入れながら、独自にバスケット・ファンド立上げの可能性を検討して貢献していかねばならない。

ASDP 事務局の報告によると、USAID もバスケット・ファンドに資金投入できる体制を整えたとのことである。したがって、主要なドナーで未だに本格投入に慎重な姿勢を示しているのは日本だけだということになる。一方、日本は今年度のノン・プロ無償から1億円を拠出すべく現地大使館から本邦外務省に要望を提出している。さらに、日本はこれ以外にも5億円をノン・プロ無償から PRBS に対して拠出する予定である。これらの資金を投入する先としてバスケット・ファンドの具体化を急がねばならない。

### (2) 農業背景調査 III (Land Act 実施計画調査) 及び地方道路整備支援調査

「貧困削減支援クレジット (PRSC) / 貧困削減予算支援 (PRBS)」に関連して、道路セクターおよび土地セクターにおける活動の実施状況のフォロー・アップを至急実施する必要がある。そして、そのフォロー・アップ結果を、PRSC/PRBS に対してフィードバックしていきたい。11月までに作成しないと世銀から資金供与を受けることが出来なくなる。なお、現在の進捗状況については以下のとおりである。

- ・ 道路セクター：県内道路整備にかかる人材育成・制度改善のためのタスク・フォースの TOR を現在策定中（主管：MOW および PO-RALG）
- ・ 土地セクター：土地法 (Land Act) の実施計画策定調査の必要性：TOR 策定済み

## 4. 来月の活動予定

6月の予定につき、既述の予定活動を中心に、想定される主な活動を以下にまとめた。ASDP 支援/DADP 作成支援チームは、コースト州内6県の巡回、地方道路整備調査の担当者は現地調査継続とプレゼンテーションの準備・実施、農業背景調査 II チームはタンザニア国内5主要都市の訪問を行なう。

活動分野	活動内容	備考
1.FASWOG 支援、 ASDP タスクフォ ース支援	●FASWOG タスクフォー等への出席。 ●ASDP タスクフォース1への出席とプ レゼン	■事務局 (Nyakimori 氏) と緊密な情報交換を行な う。
2.DADP 1年目のプロ セス分析及びガイ ドライン見直し支 援	●コースト州内6県の訪問と情報収集 ●DADP ガイドラインの修正作業	■ASDP タスクフォース1 のワーキンググループ1の 議論に貢献できるタイミン グでアウトプットを出す。
3. M&E 仕組み構築 支援	●M&E 検討会議への出席	■シンプルで県レベルでも 使える仕組みにする。
4. バスケット・ファ ンド立ち上げ支援	●保健セクター、教育セクター、PO-RALG からヒアリングする。 ●3省合同セミナーの実施のアレンジ	■同時に、以前作成した仕 組み文書の見直しも行な う。
5. 農業背景調査 III(土 地法関連調査)	●基礎資料の収集分析 ●必要に応じ、現地調査のアレンジ	■まずはダルエスにおいて 関係者からヒアリングす る。
6. 地方道路整備調査	●新規に雇用するローカルスタッフによ る基礎資料の収集 (7月に本格スタ ート予定)	■ローカルスタッフ確保を 早急に進める。
7. 報告書作成 (1) SP 支援ガイド ライン (2) 最終報告書	●構成の検討と詰め。 ●執筆者の確定。	■上記1. ~ 6. が当面の 作業の主軸になるが、同時 に報告書作成も着実に進め る必要あり。

## 収集資料リスト

- 資料 1. THE MINUTES OF THE FASWOG TASK FORCE MEETING HELD ON 24<sup>th</sup>  
April 2003
  
- 資料 2. THE MINUTES OF THE FASWOG TASK FORCE MEETING HELD ON  
27<sup>th</sup> May 2003
  
- 資料 3. Letter to DPP (about the Mission of FAO/EU/WB)
  
- 資料 4. SCHEDULE AND AGENDA OF ASDP TASKFORCE 1
  
- 資料 5. APPRAISAL REPORT OF DISTRICT AGRICULTURAL DEVELOPMENT  
PLANS FOR FINANCIAL YEAR 2003/04
  
- 資料 6. REPORT ON SCRITISATION OF DISTRICT AGRICULTURAL  
DEVELOPMENT PLANS (DADPS)
  
- 資料 7. COMMENTS ON ASDP M&E WORKING PAPER 2<sup>nd</sup> DRAFT

THE MINUTES OF THE FASWOG TASK FORCE MEETING HELD ON 24<sup>TH</sup>  
APRIL 2003 AT THE MINISTRY OF AGRICULTURE AND FOOD SECURITY  
(KILIMO I)

1. Attendance

The list of attendants is attached to these minutes.

2. Opening

Ms Janet Bitegeko, the Director of Policy and Planning (MAFS) chaired the meeting. She opened the meeting at 10.10 a.m and read the following agenda which was adopted by the meeting.

- 1) Adoption of Agenda.
- 2) Confirmation of Minutes of last meetings i.e. March 7<sup>th</sup>, 14<sup>th</sup> and 4<sup>th</sup> April 2003.
- 3) Matters arising from those minutes.
- 4) Approval of ASDP Framework and Process document
- 5) Presentation of ASDP Secretariat Budget 2003/04
- 6) Discussion on the composition and Members of Task Forces I & II, NSC and ASAC
- 7) Tentative budget of Task Forces and their Modus operandi
- 8) Endorsement of TOR's for TA to ASDP Secretariat
- 9) Presentation of Study on SGR
- 10) Any Other Business.

3. Confirmation of Minutes of last Meetings i.e. March 7<sup>th</sup> & 14<sup>th</sup> and April 4<sup>th</sup>

Minutes of March 7<sup>th</sup> & 14<sup>th</sup> as well as that of April 4<sup>th</sup> were read and approved by the Meeting.

4. Matters arising from those minutes

**Submission of DADPs to PO-RALG and Appraisal Process**

The meeting was told that only few districts managed to meet the deadline of 31<sup>st</sup> March 2003, which therefore delayed the appraisal process, which was supposed to start on 1<sup>st</sup> April 2003 to 14<sup>th</sup> April 2003. However, the meeting was told that the DADPs have been submitted to PO-RALG and appraisal process has started on 24<sup>th</sup> April 2003, Kibaha.

#### Other matters arising from the minutes.

The meeting was told that other matters arising from those minutes were in today's Meeting agenda and that therefore there was no need to discuss them at this stage.

#### 5. Approval of ASDP Framework and Process document

Since the government formally circulated the ASDP Framework and Process document to all members, the Chairperson requested members to give constructive comments/proposal that could be easily inserted into the document.

##### Comments/proposal

JICA sought clarification on item 6.1.7 on page 32 with regard to ASDP Secretariat especially on the post of Finance and Administrative Officer. The meeting was told that the post was redeployed from the government civil servant as already agreed upon.

*After that clarification the ASDP Framework and Process Document was endorsed by the meeting and recommended to ICC for final approval*

#### 6. Presentation of ASDP Secretariat Budget 2003/04

The ASDP Secretariat budget for 2003/04 was earlier circulated to all members. However, the ASDP Programme Specialist on behalf of the ASDP Coordinator told the meeting that the ASDP budget and work plan was prepared according to the mandate given to the Secretariat. He therefore, requested the meeting to approve the ASDP Secretariat budget and work plan for 2003/04 amounting to US\$ 737,529. For more detail on the budget, mandate, activities and work plan refer to ASDP Secretariat Budget and Work plan for 2003/04.

##### Discussion

- MWLD sought clarification with regard to difference in number of days while in field between the ASDP Coordinator and driver i.e. item 4.3 sub item 1 and 5. The meeting was told that not all field visit would require a driver because some time other means of transport would be required e.g. air transport
- JICA observed that the work plan and budget did not precisely correspond to each other, e.g. item 5.3 of the budget on page 3 was not included in the work plan. So the Secretariat was advised to ensure that the contents of work plan are precisely reflected on the budget.

- The meeting also advised the ASDP Secretariat to start thinking on the institutional arrangement, for Basket funding for ASDP activities by taking the experience from other Ministries, which have operated basket-funding mechanism such as Health and Education.

*The ASDP Secretariat agreed to incorporate in the ASDP work plan and budget the item of basket funding.*

- The meeting sought clarification on the reasons behind organizing the ASDP Annual Stakeholders Conference in May 2004. The meeting was told that it was assumed that by that time there would be adequate activities taking place e.g. more task forces, working groups thus justifying the meeting. With regard to this issue, the meeting was further told that organizing the Stakeholders Conference in May 2004 was not an appropriate time because Ministries will be busy preparing their budgets and farmers will also be busy in farming activities. *After this observation, the meeting agreed that the budget for meeting should be committed while thinking of an appropriate time to convene the meeting.*
- The meeting observed that funds for study tours were not adequate so the Secretariat was advised to revisit this item and correct it accordingly. Also the Secretariat was asked to include the organization of study tour in their work plan.
- Denmark observed that although the consultants should be engaged when a need arose, the consultant's funds have been confined in July, which would probably cause a problem in financial reporting. *So Denmark advised that all consultant funds should be quarterly distributed. The meeting endorsed Denmark's advice.*
- Ireland sought clarification on the reason behind the categorization of consultants under local and international consultants instead of number of consultant to be engaged. *The meeting agreed that instead of categorizing the consultants, the number of consultants should be adopted.*
- Denmark observed that backstopping work have only be emphasized at the beginning of process/activity. Denmark therefore proposed that backstopping should be through out the process and the Secretariat was advised to re-look on the issue.
- *After all these comments/suggestions the ASDP Secretariat work plan and budget was preliminarily approved subject to the incorporation of all comments/suggestions and recommendations raised in the meeting. The ASDP Secretariat was requested to revise the work plan and budget accordingly and circulate a copy to all members.*

7 Discussion on the composition of Task Forces I & II, NSC and ASAC

Task Force No I

Government Proposal

The government formally circulated a draft of the proposed composition and members of Task Force No. 1 for discussion (copy attached) .The Government proposal was as per table below

S/N	Category	Name	Total Number
1	Government Ministries	MAFS, MWLD, MCM PO-RALG and VPO	5
2	Academics	Mzumbe University	1
3	Farmers	MVIWATA	1
4	Private Sector	Kibeba Farm Iringa	1
5	NGO	Heifer Project International (Lake Zone) and VETAID	2
6	RAS	Iringa	1
7	DED	Igunga	1
7	Donors	FASWOG	2
<b>Total</b>			<b>14</b>

Development Partners Proposal

Before the discussion on the government proposal, JICA on behalf of development partners presented the donor's proposal with regard to the number and composition of the Task Force No 1 as per table below.

S/N	Category	Name	Total Number
1	Government Ministries	MAFS, MWLD, MCM PO-RALG	4
2	Academics	Mzumbe University	1
3	Farmers	MVIWATA	1
4	Private Sector	Kibeba Farm Iringa	1
5	NGO	Heifer Project International (Lake Zone) and VETAID????	2
6	RAS	Iringa	1
7	LGAs	Igunga	1
8	Donors	Denmark and Japan	2
<b>Total</b>			<b>13</b>



#### Remarks from Development Partners proposal

- Development partners proposal dropped VPO from the government proposal as their input was not seen and sought reasons for VPO inclusion and that VETAID was a suggestion from DFID as an NGO with expertise on pastoral communities for Task Force No 3.
- Development Partners proposal suggested that there was a need to deliberate on issue of proper forum to discuss irrigation related matters, i.e. should it be Task force 1 or Task Force 3. These should include review on institution arrangement to apply, planning and implementation of irrigation projects (in particular the role of government in the process), modalities of beneficiary involvement and support mechanism at pre-and cost construction stage.

#### Discussion.

- The meeting was told that the government proposal included the VPO because of its experience in poverty eradication and willingness to contribute effectively. *The meeting agreed to the government proposal and accordingly VPO was retained in Task Force No. 1.*
- The meeting sought clarification of including the Kibeba farm, as a private sector. The meeting was told that Kibeba Farm was proposed by Denmark. *The meeting however, observed that with regard to Task Force No 1 Iringa is well presented so the meeting agreed to drop the Kibeba farm and a new member to fill the position sought. The meeting further more agreed to drop VETAID in the list as an NGO and alternative member identified for VETAID.*
- Ireland advised the meeting that before selecting the name of NGO to be a member of any Task force, definition and type of NGO required should be clearly stated.

*Finally the meeting approved members and composition of Task Force No 1 to be 13, and that the composition and number be revised accordingly and copies of the same be circulated accordingly.*

## Task Force No 2

### The government proposal

The government had circulated a copy of her proposal (copy attached) as per table below

S/N	Category	Name	Total Number
1	Government Ministries	MAFS, MWLD, MCM PO-RALG and MAFS	5
2	Academics	University of Dar-Es-salaam (ERB)	1
3	Farmers	Gerald Ndimbo	1
4	Private Sector	FARM BASE	1
5	NGO	KIHACHA, PELUM	2
6	Financial Institution	Kilimanjaro Cooperative Bank	1
7	DED	Igunga	1
7	Donors	FASWOG	2
<b>Total</b>			<b>14</b>

### Development Partners Proposal

JICA on behalf of development partners presented the proposal with regard to the number and composition of the Task Force No 2 as per table below.

S/N	Category	Name	Total Number
1	Government Ministries	MAFS, MWLD, MCM PO-RALG and MoF and Cross Sectoral Ministry	5/6
2	Academics	University of Dar-Es-Salaam	1
3	RAS	( )	1
4	Private Sector	FARM BASE	1
5	NGO	.....and TADREG????	2
8	Donors	DFID and EU	2
<b>Total</b>			<b>12/13</b>

### Remarks attached to Development Partners proposal

The development partner's proposal sought clarification on the following:

- Reason for the government proposal to drop MoF and Ministry of Lands and Human Settlement Development and reasons for having 2 representatives from MAFS
- Reason for selecting ERB from the University of Dar-Es-Salaam instead of ESRF
- Reasons for dropping the RAS

- Reasons for including farmer representative, which was not there before
- A possible representative from the NGO could be TADREG

#### Discussion

- The meeting agreed that MoF should be represented in the Task No 2 to take over one of MAFS representations.
- Ireland sought clarification for choosing ERB from the University of Dar \_Es Salaam and not as the institution at large. Further more Ireland told the meeting ERB is just one NGO among many within the UDSM and that there was no reason for selecting the same as an consultant while he is already a member of one of the Task Force.
- The meeting was informed that CONCERN has shown interest to be included in the Task force No 2 and not in ASAC. *The meeting agreed that PELUM from Task Force No 2 should be a member for ASAC and CONCERN would now be a member for Task Force No 2.*
- The government objected the inclusion of TADREG as an NGO in the Task Force No 2.
- *The meeting was satisfied with development partner's composition and member of Task Force No 2 was agreed to be 12 and that the composition and number should be revised accordingly and copy circulated.*

#### ASAC Membership and Composition

- The meeting was told that FAO would be present as Development Partner in ASAC
- *The meeting thereafter endorsed the members and composition of ASAC to be 15.*

#### NSC Membership and Composition

- The meeting was told that only two development partners will be represented in the NSC with 2 alternates with one year tenure
- *After that information, the meeting endorsed the membership and composition of NSC to be 26.*

## 8 Tentative budget of Task Forces and their Modus operandi

- Mr. Nyakimori the ASDP Coordinator presented the budget for Task Force No 3. He told the meeting that inauguration and retreat will last for three day at Bagamoyo starting from 28<sup>th</sup> to 30<sup>th</sup> April and will costs Tshs 5,555,220 (copy attached). Mr. Nyakimori told the meeting that IFAD through FAO will meet the costs of Task Force No 3 and has contributed US\$ 25,000 to finance all the costs for this Task Force.

### Discussion

- The meeting observed that only Task Force No 3 has a financial support and questioned on how the other Task Force would be supported. The meeting requested donors in each Task Force to support their respective Task Forces especially EU and DFID for Task Force No 2 and Japan and Denmark for Task Force No 1. *With regard to this requested, JICA promised the meeting to table the request to other donors during a donors meeting schedule for 28<sup>th</sup> April 2003*
- The meeting observed that the workload assigned to the members of Task Force 3 was huge and was therefore pessimistic about the outputs. The meeting recommended that the timetable should be adhered to but the output from day one will give a gauge for the rest of the days.
- Mr. Nyakimori the ASDP Coordinator gave a brief note on the Modus operandi for the Task Forces. He told the meeting that retreat would only be organized during the Task Forces launching and will be facilitated by a facilitator. He further told the meeting that the other meetings of the Task Forces will depend on the availability of financial resources.

## 9 Endorsement of TOR's for TA to ADP Secretariat

The TOR's for TA for ASDP Secretariat was formally circulated to the members. So the government requested comments from the members.

### Discussion

- Ireland observed that the attributes to the candidate were not adequate, so Ireland recommended that the candidate should possess skills and experience in managing programmes under sector wide approach rather than knowledge on agriculture.
- JICA sought clarification on financing modality of TA and reason why the TA should not be financed through ASDP. The meeting was told that EU will finance the TA and TA was not funded through ASDP because the MOR for ASDP has

not yet been completed. However the meeting was assured that in the future all financing would be through the ASDP financing mechanism.

*Following these comments, the meeting endorsed the TOR's subject to detailed attributes of the candidate. The revised copy should be circulated to the members.*

#### 10 Presentation of study on SGR

The study was not presented. However, the Chairperson informed the meeting that although the TOR's were circulated, they were incomplete and therefore could not be discussed at the Meeting

#### 11 AOB

- Ireland asked the meeting that following the approval of ASDP Framework and Process Document what the role of FASWOG Task Force would be. The meeting was told that FASWOG Task Force was the wing of FASWOG so this issue should be returned to FASWOG. *The meeting therefore requested the issue be discussed when FASWOG Meeting is convened.*
  
- WFP informed the meeting that the county has been hit by a severe drought, which would result into a severe food shortage.
  
- The meeting was told that the government is intended to organize an agricultural survey to collect base data. The survey could be of two type depending on the availability of resources namely 'small survey' to be region based and ' big survey' to be district based. The costs for both surveys are Tshs 66 million and 1.9 billion respectively. However, the government has set aside Tshs 171 million for the exercise leaving a big gap between the costs and actual amount allocated. *In this regard the meeting was informed that the government has invited donors to a meeting scheduled for 30/04/2003 to discuss the issue.*
  
- The Chairperson told the meeting that previously DFID committed to finance the popularization of the ASDP and that the government had finalized all preparation for the task. However, the Chairperson informed the meeting that it was unfortunate that DFID has informed the government that it could no longer finance the exercise despite the fact that arrangements for the same had nearly been completed. So she requested the development partners to assist in rescuing the situation. She further told the meeting that the total costs for the task was US\$ 40,000.

*Ireland advised the government to circulate the proposal to members for funding consideration and Ireland also informed the meeting that Ireland has set aside some fund to support ASDP activities for three year. On the other*

*hand Denmark advised the government to write covering letter with the proposal together with formal withdraw letter from DFID and submit to Denmark.*

12      **Closing**

The Chairperson thanked the members for their attendance and closed the meeting at 1.05 p.m. The date for next Meeting would be communicated later.

PRESENT AT SPECIAL FASWOG TASK FORCE MEETING OF 24<sup>TH</sup> APRIL  
2003

S/N	Name	Organization
1.	Mrs. Janet Bitegeko	MAFS
2.	Dr. J.M. Haki	MAFS
3.	Mr. C.D. Nyakimori	MAFS (ASDP)
4.	Mr. P.S. Mbogela	MAFS (ASDP)
5.	Dr. E.D.M. Mlay	MAFS
6.	Mr. A.R. Kwayu	MAFS
7.	Mr. I.N.L. Kaduma	MWLD
8.	Mr. Kagaruki	MCM
9.	Mr. David Qawoga	PMO
10.	Ms. Vera Florida Mugittu	DANIDA
11.	Mr. John Nurphy	EU
12.	Mr. N.Mcilvenna	WFP
13.	Mr. Justus Kabyemera	FAO
14.	Dr. S. Lugeye	Ireland
15.	Mr. P. Murray	Ireland
16.	Mr. Naoki Ito	Embassy of Japan
17.	Mr. Atsushi Hanatani	JICA
18.	Mr. Raymond Msoffe	JICA
19.	Mr. Exuper James	JICA

**ABSENT WITH APOLOGY**

1. WB
2. DFID
3. PO-P&P
4. PO-RALG
5. MoF

**THE MINUTES OF THE SPECIAL FASWOG TASK FORCE MEETING HELD  
ON 27<sup>th</sup> MAY 2003 AT THE MINISTRY OF AGRICULTURE AND FOOD  
SECURITY (KILIMO II)**

**1. Attendance**

The list of attendants is attached to these minutes.

**2. Opening**

Ms Janet Bitegeko, the Director of Policy and Planning (MAFS) chaired the meeting. She opened the meeting at 2.15 p.m. and read the following agenda, which was adopted by the meeting.

- 1) Draft National Food Security Policy
- 2) Proposed incoming mission of FAO/IFAD/WB
- 3) Status/handling of Aide-Memoires produced by FAO Missions

**3. Draft National Food Security Policy (NFSP)**

Prof J.L Kinabo of Sokoine University of Agriculture on behalf of other team members gave a brief presentation on the progress made so far with regard to NFSP. She told the meeting that the progress made so far included, the inception meeting, stakeholder inception workshop involving 42 participants held in Bagamoyo from 14-15 April 2003, consultations with various potential institutions and document review.

She also told the meeting that the Tanzania Development Vision 2025 and Poverty Reduction Strategy guided the whole process of formulating the NFSP and that the expected NFSP would cover all issues, which are not addressed in other policy documents and concentration will be more on the Institutional Mechanism for Food Security Monitoring and Evaluation.

**Discussion**

- The Chairperson felt that the presentation was so brief for members to significantly contribute toward the presented progress on NFSP. She therefore foresaw the constructive comments/recommendations from the members only after circulation of the first draft of NFSSP in 9<sup>th</sup> May 2003. However, MAFS wanted to know where the issue of food security becomes imminent in the whole process of production and marketing and also the relationship between the Strategic Grain Reserve (SGR) in relation to food security.

Dr. Ashimogo on behalf of other members told the meeting that, his team synthesized all existing policy documents and other document available and said that the issues/gaps identified included food security monitoring and evaluation,



rural market access, role of private sector and institutional mechanism for food security M&E. He further told the meeting that the expected NFSP would address all these issues.

With regard to the issue of SGR, he told the meeting that the objectives pertaining to the establishment of SGR, currently are not relevant, so SGR need to be reviewed to address the current issues on the food security.

#### 4 Proposed incoming FAO/IFAD/WB Mission.

The Chairperson informed the meeting that she received a letter subscribed by JICA, DFID Ireland and Denmark Embassies requesting a clarification on the incoming mission whether the mission will be for ASDP or TARP-2. Also the letter noted that the subscribers had noted that one of the core objectives of the mission would be to assist Task Force 3 in terms of providing assistance to launching of its Working Groups, assessing the needs and planning for future external assistance/backstopping and launching studied. This act is contrary to the previous agreement that missions should be in response to the demand of ASDP formulation/implementation bodies including the Secretariat and Task Force and that timing and TORs for the mission determined by the same.

- The Chairperson confirmed to the meeting that the incoming mission would be for TARP-2 and not for ASDP and that one of the mission's members is Mr. Guy Evers who has TOR for TARP2 and he will attend TARP-2 Medium Term Plan workshop. The Chairperson further told the meeting that she consulted the Chairman for Task Force 3 who confirmed in writing that the mission was for TARP-2. She further more told the meeting also that the Chairman for Task Force 3 personally requested Mr. Guy Evers to attend the launching of Task Force working groups as co-opted expertise with adequate experience in ASDP.
- JICA wanted to know whether the decision by chairman to invite Guy Evers was at his own capacity or he consulted other members. The Chairperson told the meeting that the Chairman of Task Force 3 admitted that the decision to invite Guy Evers was personal however; *he said that in the future such decision should be strictly come from the Task Force Members.*
- JICA wanted to know whether Mr. Guy Evers will be given TORs for this Mission (ASDP). The ASDP Coordinator emphasized that Mr. Guy Evers shall not have a role/functions with regard to launching of working groups, however Mr. Guy Evers will be an invited expert, sharing skills with the working groups, with no special TORs.

*After all these clarifications it was resolved that in the future, such an invitation should originate from Task Forces and Working groups and not other wise.*

## 5. Status/handling of Aide-Memoires produced by FAO Missions

The meeting was told that an Aide Memoire is an output/findings from a technical or supervision mission to the government with regard to an implementation process, review, evaluation etc. An Aide Memoire recommends/advises the government on a set of activities/policy to be implemented within a certain period of time. Normally an Aide Memoire is discussed jointly by all stakeholders and there after the government may adopt parts of an Aide Memoire or adopted it as a total package. In order to be recognized as an official government document the Aide Memoire has to be officially endorsed by the government to prove its commitment and in that way Aide Memoire becomes an agreement and a reference point for the next actions/mission. *Wrap up Meeting is a findings presentation and discussion forum and not an endorsement forum.*

- The meeting was further told that Aide Memoires are back to the office report to the visiting Mission on one side while on the government side they may be adopted as an agreement or reference document for future actions and interventions.
- With regard to this agenda, FAO was not happy with its missions cited as a reference point while there are many missions from various bilateral and multilateral organizations. Further more FAO believed that once the Aide Memoire received the covering letter from the government, it is automatically approved and becomes a reference point for future actions.
- JICA informed FAO that Aide Memoire under consideration were those of ASDP formulation process and not other Aide Memoires from other donors. JICA also felt that recent FAO missions to ASDP assumed that Aide Memoires are the agreement with government and have been cited as a reference point for next mission prior to government endorsement.
- Denmark noted that the origin of an Aide Memoire was from the World Bank meaning semi- official but an Aide Memoires are not an agreement in practical term until the government agrees on recommendation and endorsed it as an official document and circulates it to all responsible parties.
- FAO noted with concern that its past participation in ASDS and ASDP processes was smooth but recently especially, during the ASDP formulation process some concerns started to emerge. FAO, however, assured the meeting that being an international organization; it has no hidden agenda what so ever, and that FAO is committed to assist the government upon request.
- The Chairperson noted that in the past missions such concerns were not there because every body was a part of the Aide Memoires. However she questioned if an Aide Memoires should be taken as a decisions?.

- *The Chairperson reminded the meeting that not all requests during the ASDP process should be channeled through the FASWOG Task Force and that FASWOG Task Force is an advisory forum to the government. However, the government usually informs the development partners once such requests have been made in order to strengthen her transparence to the participating members in the ASDP process.*
- *The Chairperson recommended that guidelines should be provided to all incoming mission in order to avoid conflict among the development partners and that all future missions should originate from the Task Forces and Working Groups and not otherwise. She also stressed the need of sharing information so that every participating member is kept informed. She also emphasized on the need to speed up the process on Task Force 3 in the same manner as Task Force 1 and Task Force 2.*
- JICA sought clarification on the process of inviting the backstopping mission. The meeting was told that the backstopping mission will be demand driven and should rest in the hand of Task Forces and not otherwise.
- After the expression of all these remarks, concerns, feelings, questions, the agenda was not conclusive and as a result, the Chairperson *informed the meeting that she will make more consultation with development partners and government officials in order to restore the mutual working atmosphere of trust and confidence among the development partners.*

## 12 Closing

The Chairperson thanked the members for their attendance and closed the meeting at 3.30 p.m. The date for next Meeting would be communicated later.

PRESENT AT SPECIAL FASWOG TASK FORCE MEETING OF 27<sup>TH</sup> MAY  
2003

S/N	Name	Organization
1.	Mrs. Janet Bitegeko	MAFS
2.	Ms. S.E. Kaduma	MAFS
3.	Mr. C.D. Nyakimori	MAFS (ASDP)
4.	Mr. P.S. Mbogela	MAFS (ASDP)
5.	Mr. A.R. Kwayu	MAFS
6.	Mr. Beda, H. Katani	MoF
7.	Ms. B.O.Swai	PMO
8.	Mr. E.S. Maponde	PO-P&P
9.	Mr. Winther Olsen	CTA/MAFS/DANIDA
10.	Mr. G. Stoppom	WFP
11.	Mr. P. Gence	FAO
12.	Mr. Naoki Ito	Embassy of Japan
13.	Mr. Atsushi Hanatani	JICA
14.	Mr. Ryo Sasaki	JICA-RADAG
15.	Mr. Giichiro Hayashi	JICA-RADAG
16.	Mr. Raymond Msoffe	JICA
17.	Ms. Andrea Fort	GTZ
18.	Mr. Exuper James	JICA

**ABSENT WITH APOLOGY**

1. WB
2. DFID
3. EU
4. Denmark Embassy
5. Ireland Embassy
6. PO-RALG
7. MWLD
8. MCM

Permanent Secretary  
Ministry of Agriculture and Food Security  
Attention to:  
Ms. Janet Bitegeko  
Director of Policy and Planning

Dear Madam,

With reference to the copy of the e-mail message that we received from Mr. Guy Evers, FAO-IC on 21<sup>st</sup> May 2003, and further to our discussions in the extra-ordinary FASWOG Task Force meeting held on 20<sup>th</sup> May, 2003, we wish to express a number of concerns around the in-coming IFAD/FAO/WB mission.

It was apparent from the extra-ordinary meeting on the 20<sup>th</sup> of May that there was confusion on all sides as to the purpose of this mission – some thought that it was related to TARP 2 while others believed it to be concerned with the ASDP. As it turns out, some mission members are combining several unrelated missions in one visit. You will agree that, while this arrangement may make sense in terms of allocation of resources, it is difficult to plan for several, discrete pieces of work within a limited time frame. It is also evident from this method of working that some projects or programmes may not require support at the same time. We would suggest that any future ASDP missions focus solely upon the ASDP.

Our over-riding impression from the extra-ordinary meeting was one of déjà vu, with a pending mission, the ToRs for which were still unavailable, not based on the need and decision of the established ASDP implementation/coordination mechanism, which apparently contradicts that which was discussed and agreed upon in early April this year. We believe that a common understanding had been reached, in the meeting of the ??, and that there was agreement that such missions should be in response to the demand of the ASDP formulation/implementation bodies including Secretariat and Task Forces, and the timing and ToRs of the missions determined by the same.

We are surprised to learn that one of the core objectives of the proposed mission is to assist Task Force 3 in terms of providing assistance to launching of its Working Groups, assessing the needs and planning for future external assistance/backstopping, launching priority studies. Our donor representative on Task Force 3 has confirmed that to the best of his knowledge these needs have not been discussed by the Task Force. We recommend that

the agreement to let Task Forces and the Secretariat determine their own TA needs be adhered to.

It is our sincere wish that ASDP be further developed and implemented under the firm ownership of the Government of Tanzania through the agreed process of implementation and coordination mechanisms. To this end, we wish to confirm our continued commitment and support. We have tried to react as quickly as possible for you to be in time to consider our concern and request before the arrival of the proposed incoming mission, and we are open and ready for further exchange of ideas and discussions upon your call to make this proposed mission meaningful.

Sincerely yours,

Subscribers:

JICA

DfID

Ireland Embassy

Royal Danish Embassy

Permanent Secretary  
Ministry of Agriculture and Food Security  
Attention to:  
Ms. Janet Bitegeko  
Director of Policy and Planning

Dear Madam,

With reference to the copy of the e-mail message that we received from Mr. Guy Evers, FAO-IC on 21<sup>st</sup> May 2003, and further to our discussions in the extra-ordinary FASWOG Task Force meeting held on 20<sup>th</sup> May, 2003, we wish to express a number of concerns around the in-coming IFAD/FAO/WB mission.

It was apparent from the extra-ordinary meeting on the 20<sup>th</sup> of May that there was confusion on all sides as to the purpose of this mission – some thought that it was related to TARP 2 while others believed it to be concerned with the ASDP. As it turns out, some mission members are combining several unrelated missions in one visit. You will agree that, while this arrangement may make sense in terms of allocation of resources, it is difficult to plan for several, discrete pieces of work within a limited time frame. It is also evident from this method of working that some projects or programmes may not require support at the same time. We would suggest that any future ASDP missions focus solely upon the ASDP.

Our over-riding impression from the extra-ordinary meeting was one of déjà vu, with a pending mission, the ToRs for which were still unavailable, not based on the need and decision of the established ASDP implementation/coordination mechanism, which apparently contradicts that which was discussed and agreed upon in early April this year. We believe that a common understanding had been reached, in the meeting of the ??, and that there was agreement that such missions should be in response to the demand of the ASDP formulation/implementation bodies including Secretariat and Task Forces, and the timing and ToRs of the missions determined by the same.

We are surprised to learn that one of the core objectives of the proposed mission is to assist Task Force 3 in terms of providing assistance to launching of its Working Groups, assessing the needs and planning for future external assistance/backstopping, launching priority studies. Our donor representative on Task Force 3 has confirmed that to the best of his knowledge these needs have not been discussed by the Task Force. We recommend that

the agreement to let Task Forces and the Secretariat determine their own TA needs be adhered to.

It is our sincere wish that ASDP be further developed and implemented under the firm ownership of the Government of Tanzania through the agreed process of implementation and coordination mechanisms. To this end, we wish to confirm our continued commitment and support. We have tried to react as quickly as possible for you to be in time to consider our concern and request before the arrival of the proposed incoming mission, and we are open and ready for further exchange of ideas and discussions upon your call to make this proposed mission meaningful.

Sincerely yours,

Subscribers:

JICA

DfID

Ireland Embassy

Royal Danish Embassy



TENTATIVE AGENDA FOR TASK FORCE I  
Retreat Meeting At Tanesco Conference Hall - Morogoro  
15<sup>th</sup> – 16<sup>th</sup> May 2003

1. Opening address by Chairperson
2. Terms of Reference of the Task Force
3. Confirmation of possible Working Groups: -
  - i) Prioritize Working Groups
  - ii) Confirm TOR for Working Groups
4. Identify essential studies
  - i) Prepare TOR for the essential studies
5. Prepare Annual Work Plan and Budget for the Task Force and Working Groups.
6. Retreat report.

5/11/03

**RETREAT OF THE TASK FORCE ON INVESTMENT AND  
IMPLEMENTATION AT THE DISTRICT AND FIELD LEVEL**

**DAY 1 – PROGRAMME**  
15<sup>TH</sup> MAY, 2003

Time	Activity	Responsible
9.00 – 09.30	Opening: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Opening Remarks</li> <li>• Appointment of Secretary</li> <li>• Preparation of Programme</li> <li>• House Rules</li> </ul>	Chairman Facilitator
9.30 – 10.30	Finalization of TF Terms of Reference	Working Groups Chairman/Facilitator/All
10.30 – 11.00	<i>Health Break</i>	<i>All</i>
11.00 – 12.00	Confirmation of Priority Working Groups	Chairman/Facilitator/All
12.00 – 01.00	Terms of Reference for Priority Work Groups	Working Groups
01.00 – 01.30	Group Reports	Chairman/Facilitator/All
01.30 – 2.30	<i>Lunch Break</i>	<i>All</i>
2.30 – 03.00	Identification of Essential Studies	Chairman/Facilitator/All
3.00 – 03.30	Terms of Reference for Essential Studies	Working Groups
3.30 – 04.00	Group Reports	Chairman/Facilitator/All
04.00 – 4.30	<i>Health Break</i>	<i>All</i>
04.30 – 5.00	PO-RALG - Questions and Answers	Chairman/PORA;G

**RETREAT OF THE TASK FORCE ON INVESTMENT AND  
IMPLEMENTATION AT THE DISTRICT AND FIELD LEVEL**

---

**DAY2- PROGRAMME**  
16<sup>TH</sup> MAY, 2003

Time	Activity	Responsible
8.00 – 09.30	Programme Development • Message from PO-RALG	Facilitator Chairman
9.00 – 10.30	Working Modalities	Facilitator/Working Groups
10.30 – 11.00	<i>Health Break</i>	<i>All</i>
11.00 – 12.00	Work Plan	Working Groups
12.00 – 12.30	Budget	Working Groups
12.30 – 1.30	<i>General comments/Recommendations</i>	Facilitator/All
1.30 – 01.40	Closing	
1.40 – 2.40	<i>Lunch</i>	<i>All</i>
02.40 -----	<i>Departure</i>	All

## APPRAISAL REPORT OF DISTRICT AGRICULTURAL DEVELOPMENT PLANS FOR FINANCIAL YEAR 2003/04

### 1.0. INTRODUCTION:

#### General Review:

The Agricultural Sector Development Programme (ASDP) implements policies contained in the Agricultural Sector Development Strategy (ASDS).

The Agricultural Sector Development Programme (ASDP) is organized into three complementary sub-programmes (A,B&C), of these District Agricultural Development Plan (DADPs) is one of the components of sub programme A, and it is implemented through Local Government Authorities (LGAs). The main emphasis of the DADPs is to empower LGAs and communities to control their planning process and establish an environment which encourages private sector investment in all aspects of agriculture in order to reduce **Poverty** and ensure **Food Security** as stipulated in the national Development Vision 2025.

DADPs is an integral part of each District Development Plan (DDP); which include activities that are undertaken in the field in direct support of agricultural production and marketing.

Appraisal of DADPs was held in Kibaha from 24/4/2003 to 6/05/2003. It was undertaken by a team of experts from the four Agricultural Sector Lead Ministries namely President's Office Regional Administration and Local Government (PORALG), Ministry of Agriculture and Food Security (MAFS), Ministry of Water and Livestock Development (MoWLD), Ministry of Cooperative and Marketing (MCM). The Ministry of Community Development, Gender and Children (MCDGC) was also involved.

#### 1.1. Objective:

The objective of the exercise was to scrutinize the Agricultural Sector Development projects with the view of selecting the most viable, sustainable and having immediate impact with respect to Development Vision 2025.

## 1.2. Methodology:

In appraising the projects, three groups were formed comprising of a minimum of three experts per group. Each appraisal group appraised one region per day. The exercise was done through consultative discussions with officials from respective Regional Secretariats. At the end of the discussions, projects to be funded were agreed upon basing on appraisal criteria.

Budget ceilings for districts were set to guide the allocation of funds. The formula used in setting the ceilings was as follows:

Distribution Criteria	Weight:
Human population	0.10
Livestock population	0.35
Arable land	0.35
Irrigatable Land Area	0.17
M&E LGAs	0.01
M&E for RSs	0.01
M&E for PORALG	0.01

## 1.3. Appraisal Criteria:

The appraisal criteria used were as follows:

- Viability;
- Sustainability;
- Quick Wins;
- Risk assessment.

## 2.0. FINDINGS/OBSERVATIONS:

The key findings are as follows:

- Weak linkage between Regional Secretariat and Local Government Authorities (LGAs) in the preparations of DADPs.
- Lack of general knowledge by some LGAs in project preparations.

- MTEF knowledge in budget preparations seems not to be well known by LGAs.
- There were over ambitious plans due to lack of budget ceilings by the LGAs.

### 3.0. INITIAL SUBMISSION BY LGAs:

Initial budget submissions by LGAs amounted to TZS.50,692,048,366 are as follows:

• Crops.	TZS.	16,139,434,628
• Livestock	TZS.	13,903,967,321
• Co-operatives	TZS.	3,839,540,247
• Irrigation	TZS.	7,808,331,265
• Cross Cutting Issues	TZS.	6,976,239,392
• Supervision	TZS.	2,024,535,493
<b>Total</b>	<b>TZS.</b>	<b>50,692,048,366</b>

For details see Annex 1.

### 4.0. Proposed Activities for Funding:

The proposed budget for DADPs will finance major key areas, which have immediate impacts to the nation and beneficiaries. These key areas are such as:

- Rehabilitation of Small Scale Irrigation schemes;
- Promotion and quality improvement of main cash crops according to the districts potentiality;
- Promotion of main food production according to district potential;
- Rehabilitation of cattle dips;
- Rehabilitation/construction of charco dams for livestock;
- Promotion and strengthening of SACCOs, SACCAs and rural microfinance in general

The proposed DADPs budget for the financial year 2003/2004 is TZS 11,000,000,000 broken down as follows:

• Crops.	TZS.	2,348,919,145
• Livestock	TZS.	<u>3,974,866,455</u>
• Co-operatives	TZS.	<u>803,515,285</u>
• Irrigation	TZS.	<u>2,383,451,773</u>
• Cross Cutting Issues	TZS.	<u>287,786,654</u>
• Supervision of implementation		
- LGAs	TZS	98,400,000
- RS (21 Regions)	TZS	<u>98,400,000</u>
- PO-RALG	TZS	<u>98,400,000</u>
<b>Total</b>	<b>TZS.</b>	<b><u>11,000,000,000</u></b>

For details see Annex No. II and III.

#### **5.0. PROPOSED FINANCING ARRANGEMENT:**

- DADPs budget;
- Subvention on Agricultural Inputs;
- STABEX fund under ASDP.

#### **6.0. WAY FORWARD:**

- The proposed projects will be prepared by the respective LGAs in MTEF approach and submitted to Ministry of Finance and Agricultural Sector Lead Ministries by 20/5/2003.
- General weaknesses observed should be addressed before the next budget sessions (2004/05).
- Budget allocated for supervision at district, regional and national levels should be used effectively to oversee the implementation of the DADPs

# **ANNEX I**

## **REQUESTED FUNDS BY COUNCILS BEFORE SCRUITINISATION**



RECOMMENDED BUDGET ALLOCATIONS FOR THE YEAR 2003/04 - ARUSHA REGION

REGION	COUNCIL	CROPS	LIVESTOCK	COOPERATIVE	IRRIGATION	GROSS CUTTING	M&E	TOTAL
ARUSHA	Arumeru	54,858,367	56,823,244	-	-	-	1,369,211	113,050,822
	Arusha Municipal	8,067,053	17,586,728	-	-	-	96,423	25,750,204
	Karatu	15,284,127	25,051,082	4,943,400	15,026,043	-	424,263	60,728,915
	Monduli	33,708,001	77,280,888	6,454,738	21,121,053	-	665,321	139,230,001
	Ngorongoro	30,720,561	75,658,468	-	30,231,850	-	308,555	136,919,434
	Sub-total	142,638,109	252,400,410	11,398,138	66,378,946	-	2,863,773	475,679,376
	RS	-	-	-	-	-	4,241,379	4,241,379
	GRAND TOTAL	142,638,109	252,400,410	11,398,138	66,378,946	-	7,105,152	479,920,755

## REPORT ON SCRUITINISATION OF DISTRICT AGRICULTURAL DEVELOPMENT PLANS (DADPS)

### 1. Introduction:

On 21<sup>st</sup> February, 2003 one-day zonal workshops were conducted in 6 zones with the purpose of introducing mini guidelines for the preparation of District Agricultural Sector Development Plans. They were conducted in Morogoro, Mwanza, Moshi, Mbeya., Mtwara and Dodoma. The participants to the workshops included the following officials.

At Regional level:

- Regional Administrative Secretary,
- Planning Advisor,
- Agriculture Advisor,
- Livestock Advisor,
- Cooperatives Advisor,
- Community Development Advisor.

At Council Level:

- District Executive Director,
- District Planning Officer,
- District Agricultural and Livestock Development Officer,
- District Co-operative and Marketing Officer
- District Community Development, Women Affairs and children Officer.

After the Workshop deliberations, Councils were given one month to prepare the District Agriculture Development Plans (DADPs) in a participatory way and were asked to submit them to PORALG by 30<sup>th</sup> March 2003, there were no budget ceilings given to the Districts. There after experts from the Agricultural Sector Lead Ministries, PORALG and the Ministry of Community Development. Gender and Children were to meet at Kibaha and scrutinize the plans in order to come up with viable projects for funding.

### 2. Submission of DADPS:

By the end of March about 70% of DADPS were received by PORALG. There was a general complaint that, the time given for the preparation of the DADPs in a participatory way was too short and hence the time for submission was extended for further 2 weeks. After the extension period had elapsed, most of the councils, had

already submitted their DADPS. Some Councils submitted their DADPS at PORALG Dar es Salaam and Dodoma Offices, others submitted them to ASDP Secretariat and others to MAFs. All the DADPs documents were collected and were sent to Kibaha Conference Center for scrutinisation.

#### **The Scrutinisation team:**

The Scrutinisation team included the following members:

<b>Name:</b>	<b>Ministry:</b>
1. Mr. M.F. Lemnge	- PORALG
2. Mr. J.S.B. Madaha	- PORALG,
3. Mr. K. Kanyasi	- PORALG
4. Mr. S. Semgalawe	- MAFs
5. Mr. E.M. Achayo	- MAFs
6. Mr. S.C. Ngoda	- MCM
7. Mr. C.A. Lushiku	- MCDG-C
8. Mr. A. Kisuju	- MCDG-C
9. Mr. D.A. Rwezaula	- MoWLD
10. Mr. S.R. Mwinjaka	- MoWLD

The Planning and Agriculture/Livestock advisors at the Regional Secretariat Offices presented the DADPs for discussion.

#### **The Scrutinisation Budget:**

A budget of Tshs.14.5 million was prepared for the purpose. The budget was to cover for stationery, DSAs for Ministerial officials and those from the regions and transport to Kibaha. The money came from PORALG and MoWLD. However the budget fell short of about Tshs.1.5 m as most of the officials from Southern, Western and lake regions came by Air instead of road/railway transport.

The DADP scrutinisation team met at Kibaha on 24<sup>th</sup> April and charted out a strategy on how to perform the task.

The team subdivided itself into three groups, each group was assigned 7 regions to scrutinize, one region per day.

The team also developed a criteria to be followed by each sub group in order to come up with same conclusions. Each project to be appraised and recommended for funding should be SMART, viable, with quick wins, sustainable and with less risks.

1. SMART
  - Specific
  - Measurable
  - Achievable
  - Realistic and
  - Time bound
2. Viable
  - Financial returns. Is costing realistic
  - Technical and management issues – Are inputs realistic.
  - Commercial output marketable.
3. Quick wins:
  - Will the project have immediate impact on poverty reduction and food security.
4. Sustainability
  - Ownership: – Financing plan/cost sharing  
- involvement of stakeholders.
  - Capacity
  - Market Outlets.
5. Risk Assessment
  - Is the project too risk to implement?
  - Environmental impact

Score sheet was prepared and each item was given a weight.

No.	Factor	Weight
1.	Viability	0.25
2.	Quick Wins	0.30
3.	Sustainability	0.25
4.	Risk Assessment	0.20
	<b>Total</b>	<b>1.0</b>

Each group ensured that each sub sector (crops, livestock and cooperatives and marketing) be allocated some resources

### 3. Ceilings:

Since the funds earmarked for implementation of DADPs for the year 2003/04 amounted to Tshs.11 billion there was a need to come up with criteria for allocating the funds to the canals as their requests exceeded the amounts set aside for the purpose. Criteria which was developed by PORALG and adopted by the agriculture sector lead Ministries was used. The formula was based on equal distribution and then application of a formula which was based on the following variables:

Human population with a weight of 0.1  
 Livestock population with a weight of 0.35  
 Arable land with a weight of 0.35  
 Irrigatable land area with a weight of 0.17  
 Monitoring and Evaluation for LGAs with a weight of 0.01  
 Monitoring and Evaluation for RS with a weight of 0.01  
 Monitoring and Evaluation for PORALG with a weight of 0.01  
 Plus equal distribution of Tshs.10,000,000 for each Council.  
 - for details see Annex I

#### Scrutinisation Work:

Each team went through the DADP activities and projects and advised the Regional representatives to drop or include them in the final version of the DADP within the ceilings given for each councils depending on whether such activity/project met the criteria already mentioned earlier. Further more they were asked to fill in the MTEF segment sheet No.1 and the GFS code Form No.6.

#### 4. Observations:

The key observations are as follows:

- Weak linkage between Regional Secretariat and Local Government Authorities (LGAs) in the preparations of DADPs.
- Lack of general knowledge by some LGAs in project preparations.
- MTEF knowledge in budget preparations seems not to be well known by LGAs.
- There were over ambitious plans (due to lack of budget ceilings) by the LGAs.

#### 5. Initial Submission by LGAs:

Initial budget submissions by LGAs amounted to TZS.50,692,048,366 as detailed in the following breakdown::

• Crops.	TZS.	16,139,434,628
• Livestock	TZS.	<u>13,903,967,321</u>
• Co-operatives	TZS.	<u>3,839,540,247</u>
• Irrigation	TZS.	<u>7,808,331,265</u>

• Cross Cutting Issues	TZS.	<u>6,976,239,392</u>
• Supervision	TZS.	<u>2,024,535,493</u>
<b>Total</b>	<b>TZS.</b>	<b><u>50,692,048,366</u></b>

For more details see Annex II.

#### 6. Proposed Activities for Funding:

The proposed budget for DADPs will finance major key areas, which have quick wins to the nation and beneficiaries. These key areas are such as:

- Rehabilitation of Small Scale Irrigation schemes;
- Promotion and quality improvement of main cash crops according to the districts potentiality;
- Promotion of main food production according to district potential;
- Rehabilitation of cattle dips;
- Rehabilitation/construction of charco dams for livestock;
- Promotion and strengthening of SACCOs, SACCAs and rural microfinance in general

The proposed DADPs budget for the financial year 2003/2004 is TZS 11,000,000,000 broken down as follows:

• Crops.	TZS.	3,248,919,145
• Livestock	TZS.	<u>3,974,866,455</u>
• Co-operatives	TZS.	<u>803,515,282</u>
• Irrigation	TZS.	<u>2,383,451,773</u>
• Cross Cutting Issues	TZS.	<u>287,786,654</u>
• Supervision of implementation M&E	TZS.	<u>203,060,691</u>
<b>Total</b>	<b>TZS.</b>	<b><u>11,000,000,000</u></b>

For more details see Annex No. III and IV.

7. Way Forward:

- The proposed projects will be prepared by the respective LGAs in MTEF approach and submitted to Ministry of Finance and Agricultural Sector Lead Ministries by 20/5/2003.
- General weaknesses observed should be addressed before the next budget sessions (2004/05).

Budget allocated for supervision at district, regional and national levels should be used efficiently and effectively to oversee the implementation of the DADPs

Total amount of funds requested sub sector wise amounted to Tshs.50.7 billion but after discussion the amount, were reduced to Tshs.11 billion.

Annex V - Names of all the Participants who got involved in the scrutinisation exercise.

		AMOUNT ALLOCATABLE BY FORMULA																			
DISTRIBUTION CRITERIA		FACTOR		AMOUNT																	
Human Population		0.10	984,000,000																		Annex I
Livestock Population		0.35	3,444,000,000																		
Arable Land		0.35	3,444,000,000																		
Irrigatable Land Area		0.17	1,672,800,000																		
M & E LGAS		0.01	98,400,000																		
M & E FOR RSS		0.01	98,400,000																		
M & E FOR PORALG		0.01	98,400,000																		
<b>TOTAL</b>		<b>1.00</b>	<b>9,840,000,000</b>																		
EQUAL DISTRIBUTION 10,000,000X116			1,160,000,000																		
			11,000,000,000																		
POPULATION		L/STOCK		LAND		I/LAND		M & E RS		M & E LGAS		E/DISTRIB		TOTAL							
Arusha	37,882,993	288,081,428	88,972,400	7,878,782	4,241,379	2,863,773	50,000,000	479,920,756													
Dar es Salaam	73,187,486	10,858,695	6,768,943	8,647,444	2,544,828	366,409	30,000,000	132,373,805													
Dodoma	49,779,116	257,807,641	212,949,679	11,626,008	4,241,379	4,686,173	50,000,000	591,089,997													
Iringa	43,811,966	133,483,310	242,641,818	7,334,314	5,089,655	6,807,487	60,000,000	499,168,549													
Kagera	59,591,163	95,443,166	327,149,596	55,631,890	5,089,655	5,930,034	60,000,000	608,835,504													
Kigoma	49,196,445	44,362,663	197,331,503	59,987,639	3,393,103	2,333,444	40,000,000	396,604,798													
Kilimanjaro	40,466,474	146,237,381	106,086,786	314,927,099	5,089,655	4,271,553	60,000,000	677,078,948													
Lindi	23,184,583	7,233,995	216,830,220	30,618,357	5,089,655	4,194,415	60,000,000	347,151,225													
Manyara	30,484,609	334,182,419	115,832,144	77,730,913	5,089,655	2,815,561	60,000,000	626,135,302													
Mara	40,098,857	250,898,744	70,521,829	57,265,296	4,241,379	4,088,349	50,000,000	477,114,454													
Mbeya	60,650,561	163,543,433	216,502,175	126,380,793	6,786,207	7,328,172	80,000,000	661,191,341													
Morogoro	51,560,885	111,212,751	231,952,328	373,889,856	4,241,379	5,322,567	50,000,000	828,179,767													
Mtwara	33,064,750	27,026,602	134,178,701	49,738,817	4,241,379	5,708,261	50,000,000	303,958,510													
Mwanza	86,202,397	268,219,000	89,724,505	80,677,450	5,937,931	6,662,852	70,000,000	607,424,135													
Pwani	26,051,445	26,932,173	128,625,927	80,068,926	5,937,931	3,683,371	70,000,000	341,299,773													
Rukwa	33,452,085	83,259,468	158,390,075	89,485,032	3,393,103	3,413,386	40,000,000	411,393,148													
Ruvuma	32,732,000	35,271,504	214,325,871	25,718,139	3,393,103	4,107,634	40,000,000	355,548,251													
Shinyanga	82,201,073	521,628,306	251,235,015	26,134,497	5,937,931	8,147,771	70,000,000	965,284,593													
Singida	31,958,268	259,875,468	77,874,854	38,561,195	3,393,103	4,097,991	40,000,000	455,760,879													
Tabora	50,333,222	272,142,391	233,720,574	79,684,595	5,089,655	4,676,531	60,000,000	705,646,968													
Tanga	48,109,622	106,299,460	122,385,057	70,812,958	5,937,931	6,894,268	70,000,000	430,439,296													
<b>PORALG</b>					98,400,000			98,400,000													
<b>TOTAL</b>	<b>984,000,000</b>	<b>3,444,000,000</b>	<b>3,444,000,000</b>	<b>1,672,800,000</b>	<b>196,800,000</b>	<b>98,400,000</b>	<b>1,160,000,000</b>	<b>11,000,000,000</b>													



Comments on the Working Paper on M&E Second Draft

JICA, JICA/RADAG

## &lt;General Comments&gt;

- The revised Working Paper has evolved a lot and provides a sound base for upcoming elaboration on log frame and indicator identification.
- It can also be said that the Working Paper is properly addressing the issue of linking national framework and that of district, by incorporating M&E activities and linkages suggested in the current version of DADP Guidelines.. In other word, this Working Paper has become realistic compared to the previous one.

## &lt;A Suggestion&gt;

As an attempt to provide some inputs to the future work, we tried to improvise detailed breakdown of logical flows and some accompanying indicators mostly drawing upon those indicated in the Working Paper.

- The attached excel document includes an idea of monitoring framework which would, hopefully, strengthen the framework proposed in your Working Paper.

(1) ASDS/ASDP Results (Objective) Framework

(2) Suggested Key Indicators

(3) Key Indicator List of ASDP Sub-Programmes

- Though they are still preliminary in nature, they can be modified as appropriate through the discussions to be held during your stay. (We, JICA and JICA/RADAG, are very happy if we have time and can exchange views on this idea with your study mission.)

- These three tables are can be inserted somewhere between page 47 and page 48. If these three tables are included, the reader would be able to understand the M&E structure of ASDS / ASDP more clearly. Again, needless to say, these three tables should be thoroughly reviewed; revised and streamlined into your Working Paper as appropriate.

## &lt;Detailed Comments&gt;

1. (front cover page) The phrase on the front page, 'FAO -World Bank Cooperative

- Automated  
- Production  
- Monitoring  
- District  
- Capacity

Programme' should be dropped. Since ASDP is not a programme by FAO and World Bank but by all stakeholders led by Tanzania Government.

2. (pp.2) As to M & E Technical Working Group, what will be the TORs for this group? What role will they be expected to perform and what kind of matters to discuss? Can you also suggest some generic terms for this group?

3. (pp.14) M&E Principles for ASDP is suggested in this page. We suggest that one more principle, 'Simple and Usable' can be added..

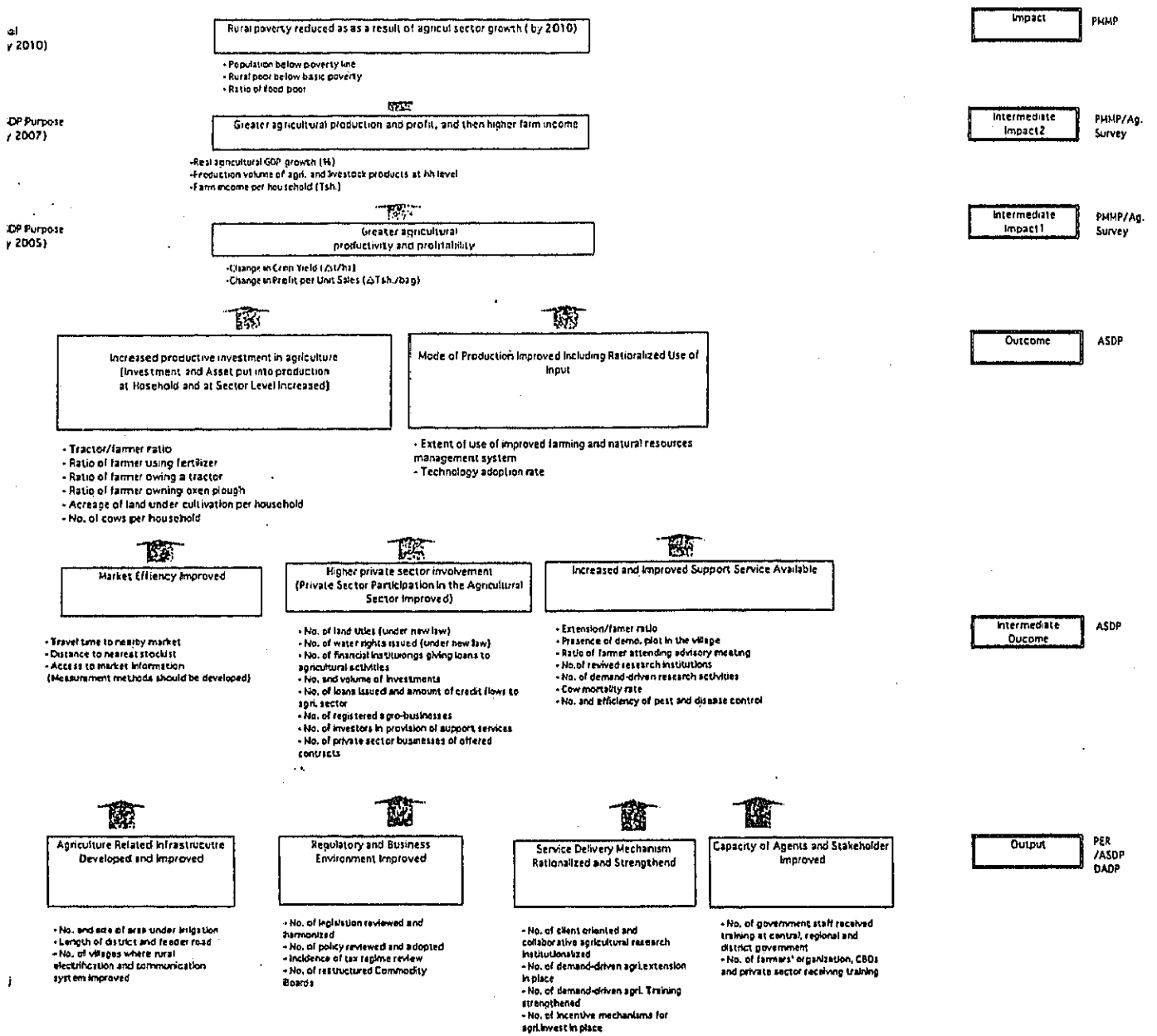
4. (pp.22) This paper states that it is difficult to identify productivity and profitability indicators. These are very essential and central issues to evaluate the degree of success in ASDS and ASDP even if their identification seems difficult. Indicators to monitor productivity and profitability should be carefully identified and included. We can assign this task on M & E Task Force, a suggestion is included in the attached table.

5. Draft questionnaire for Agriculture Census has now been prepared and is going to be put to piloting. The information which can be obtained through this exercise can also provide some clues as to what indicators are to be established to measure changes in productivity/profitability.

(end)



**ASDS/ASDP Results(Objective) Framework**  
Suggested Key Indicators



Key Indicator List of ASDP Sub-Programme Level

Sub-Programme	Suggested Main Components	Key Indicators	Source	
Sub-Programme A: Agricultural Sector Support and Implementation at District and Field Level.	A.1 Investment & Implementation (at District)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Irrigation &amp; water mng.at District</li> <li>- Mechanisation at District</li> <li>- Storage &amp; post-harvest at District</li> <li>- Agro-processing at District</li>   <li>- Range Mng. At District</li> <li>- Livestock&amp;animal health at District</li> <li>- Better land husbandry at District</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Irrigation Area (km2)</li> <li>- Tractker / Farmer Ratio (%)</li> <li>- Storage Facilities (NO.)</li>   <li>- Range Management Conducted (Km2)</li> <li>- Livestock Infection (NO.)</li> </ul>	DADP and other LGA Report
	A.2 Policy, Regulatory and Institutional Framework (at District)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Policy framework at District</li> <li>- Regulatory Framework at District</li> <li>- Community empowerment at District</li> <li>- Agri.info &amp; advocacy at District</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;At District Level&gt;</li> <li>- DADP Submitted (NO.)</li> <li>- Legistration Reviewed &amp; Developed (NO.)</li> <li>- Training attended (NO.) for government officials</li> <li>- Community Meeting (NO.)</li> <li>- News Letter/ Gov.Order Circulated(NO.)</li> </ul>	
	A.3 Research, Advisory Services and Training (at District)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Client-oriented research at District</li> <li>- Animal&amp;plant multi. at District</li> <li>- Advisory services at District</li> <li>- Training of producers&amp;Servicerat District</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;At District Level&gt;</li> <li>- Agricultural Research (NO.)</li> <li>- Multiplication (NO.)</li> <li>- Training attended (NO.) for private sector</li> <li>- Advisory Service (NO.) for private sector</li> </ul>	
	A.4 Private Sector Development, Marketing and Rural Finance (at District)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Private sector development at District</li> <li>- Market dvlp. &amp; infrastructure at District</li> <li>- Producer organization at District</li> <li>- Financial institutios &amp; services at District</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;At District Level&gt;</li> <li>-Registered Agro-Processors (NO.)</li> <li>- Producer Organization (NO.)</li> <li>- Loans approved (NO.)</li> </ul>	
	A.5 Cross Cutting and Cross-Sectoral Issues (at District)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Rural infra.&amp;energy at District</li> <li>- Civil service at LGA reform at District</li> <li>- Village Land Act Implem. At District</li> <li>- Health, Gender, Envi, Forest, Water, Edu.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;At District Level&gt;</li> <li>-Rural Road Rehabilitated (km)</li> <li>- Rural Electrification (%)</li> <li>- Land Act implementation (No. of Land Dispute)</li> <li>- Meetings Agricultural Officials Invited (NO.) in Health, Edu. Gender, Envi., Other Sectors</li> </ul>	
Sub-Programme B: Agricultural Sector Support at National Level.	B.1 Policy, Ruglatory & Institutila Framework (at National)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Policy &amp; regulatory framework at National</li> <li>- Commercial sub-sector dev. At National</li> <li>- Agricultural information at National</li> <li>- ASDP mngmnt&amp;secretariat at National,</li> <li>- Advocacy at National</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;At National Level&gt;</li> <li>- Legistration Reviewed &amp; Developed (NO.)</li> <li>- Training attended (NO.) for government officials</li> </ul>	Ministry Reports
	B.2 Research, Advisory Services & Training (at National)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Research at National</li> <li>- Annimal&amp;plant multi. at National</li> <li>- Advisory services at National</li> <li>- Training &amp; education at National</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;At National Level&gt;</li> <li>- Agricultural Research (NO.)</li> <li>- Multiplication (NO.)</li> <li>- Training attended (NO.) for private sector</li> <li>- Advisory Service (NO.) for private sector</li> </ul>	
	B.3 Private Sector Development, Marketing & Rural Finance (at National)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Private sector development at National</li> <li>- Market dvlp. &amp; infrastructure at National</li> <li>- Producer organization at National</li> <li>- Financial institutios &amp; services at National</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;At National Level&gt;</li> <li>-Registered Agro-Processors (NO.)</li> <li>- Producer Organization (NO.)</li> <li>- Loans approved (NO.)</li> </ul>	
Sub-Programme C: Cross-Cutting Issues with other Sectors at the National Level.	<ul style="list-style-type: none"> <li>C-1. Rural Infra. &amp; energy</li> <li>C-2. Civil Service.</li> <li>C-3. Land Acts' implementation</li> <li>C-4. Health, Gender, Education</li> <li>C-5. Environ., Forest, Water</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;At National Level&gt;</li> <li>-Rural Road Rehabilitated (km)</li> <li>- Rural Electrification (%)</li> <li>- Civil Service Act Enatcted(Y/N)</li> <li>- Land Act Implementation (No. of Land Dispute)</li> <li>- Meetings Agricultural Officials Invited (NO.) in Health, Edu. Gender, Envi., Other Sectors</li> </ul>		



## 2003年6月の活動結果

- バスケット・ファンド立ち上げに向けた調整が進んだ。
- 来年度予算の財政演説に関する議論が白熱した。
- M&E ワーキング・ペーパーに関する会合が開催された。
- DADP ガイドライン修正を行なうワーキング・グループが立ち上がった。
- コースト州6県を訪問して DADP 1年目の作成の実態について調査した。
- 土地法の実施計画に関する関連調査を開始した。

# 1. 現地調査業務の概要及び結果

## 1-1. 6月の活動概要

(1) バスケット・ファンド立ち上げに向けた調整が進んだ。

今月に入り ASDP 事務局は最優先の課題としてバスケット・ファンドの立ち上げを考えていることを表明。これに呼応してバスケット・ファンドをもう一度議論するワーキング・グループの作業スケジュールの素案を JICA が ASDP 事務局に提示した。次回の FASWOG タスクフォース会合で ASDP 事務局から、ドナー等に公表される見込みとなった。調査団は、作業スケジュールでも提案されている4省合同ワークショップ（教育省、保健省、地方自治庁、MAFS）の開催に向けて、根回しを行なった。

(2) ASDP 詳細設計の進め方及び来年度予算の財政演説に関する議論が白熱した。

ASDP 詳細設計の進め方について、インフォーマル・ドナー会合において懸念が表明され、ドナー間で意見交換した。

また国会が開幕し来年度予算の審議が始まり、冒頭に首相が財政演説を行ない、その中で農業開発の重要性を指摘し、肥料補助金の拡大や農産品目別ボードの活動拡大の方針を発表した。これに世銀が懸念を表明するメールを当地の各ドナー担当者に流し、その後啓かれたインフォーマル・ドナー会合で各ドナーも基本的に同調した。来月の DAC 会合でその懸念を表明することになった。

(3) M&E ワーキング・ペーパーに関する会合が開催された。

ASDP 文書における M&E の仕組みを見直している FAO-Investment Center のコンサルタントが来タして、事前に配付したワーキング・ペーパー（2<sup>nd</sup> Draft）に関して議論するための会合を開催した。JICA 及び調査団から1名ずつ参加した。事前に配付されたワーキング・ペーパー(2<sup>nd</sup> Draft)は、1<sup>st</sup> Draft に対して JICA 及び調査団が出したコメントに基づいて大幅に修正されていたが、まだ不十分であり、追加のコメントを提出した。FAO-Investment Center のコンサルタントはそのコメントを持ち帰り、今後さらなる修正作業を行なう予定。

(4) DADP ガイドライン修正を行なうタスクフォース1が立ち上がった。

ASDP 詳細設計を行なう3つのタスクフォースのうち、タスクフォース1 (Planning and Implementation at LGA Level) の下に、DADP ガイドライン



の修正作業を行なうワーキング・グループが設置され、その第一回会合が持たれた。JICA が正式メンバーになった他、調査団からも1名オブザーバーとして出席した。そして、調査団からの参加者が、DADP の基本的な考え方に関してプレゼンを行なうとともに、DADP ガイドラインの英語版・スワヒリ語版をワーキング・グループのメンバーに配付した。

(5) コースト州6県を訪問してDADP1年目の作成の実態について調査した。

コースト州6県及び州庁を訪問して、1年目のDADP作成作業について実態をヒアリングし、DADP ガイドラインの修正に向けた提言を得た。調査の結果及び修正提言は、ワーキング・グループにて発表及び同グループの議長に提出して説明することを目指している。

(6) 土地法の実施計画に関する関連調査を開始した。

バイのドナー及び世銀が実施する予定のPRBS/PRSC（貧困削減財政支援・貧困削減支援クレジット）の条件として、2004年3月までに土地法施行の実施計画を提出することが求められていることに鑑み、調査団で支援できる部分があるかどうか検討を開始した。調査団は、関係資料の収集や政府関係者及びドナー関係者に対するヒアリングを実施した。その結果、実施計画策定に関する動きは遅延しているということが判明した。今後、土地省及びMAFSと協議し、調査団としてどのような支援が可能か検討することにした。

図表1には6月中に調査団が関わった主要な出来事をまとめた。

## 1-2. 6月の活動の注力点

今月、調査団は以下の諸点に注力して活動した。

- バスケット・ファンド立ち上げに向けた調整。
- インフォーマル・ドナー会合への参加。
- M&E ワーキング・ペーパーに関する会合への参加。
- DADP ガイドライン修正を行なうワーキング・グループへの参加。
- コースト州6県におけるDADP作成の実態に関する調査。
- 土地法の実施計画に関する関連調査。

図表 1 調査団が関わった主要な出来事の一覧

Date	Day	Activities			
		ASDP related meetings (FASHOG Taskforce, etc.)	Visits of Coast Region	Study of Land Act	RADAG team meetings
1-June	Sun				
2-June	Mon				
3-June	Tue				
4-June	Wed				
5-June	Thu				
6-June	Fri	Meeting with Mr. Nyakimoi (ASDP Sec.) and Mr. Hwangul (JICA)	Visit to Regional Agricultural Advisor Visit to District(1): Kibaha District		
7-June	Sat				
8-June	Sun				
9-June	Mon				
10-June	Tue				
11-June	Wed	Working Group 1 of Taskforce 1 Launching Meeting at Mtwara			
12-June	Thu		Visit to District(2): Bugemoyo District		
13-June	Fri		Visit to District(3): Kiarawe District		
14-June	Sat				
15-June	Sun				
16-June	Mon	Meeting with Mr. Mlyedu, Ministry of Education			Meeting with JICA
17-June	Tue	Meeting with Dr. Jigora Abund, Ministry of Health Meeting with Mr. Shalo (MAFS)			
18-June	Wed	Workshop of ASDP M&E Working Paper	Visit to District(4): Rufiji District		
19-June	Thu	Presentation of SED (Socio-economic Database)			
20-June	Fri				
21-June	Sat				
22-June	Sun				
23-June	Mon				
24-June	Tue		Visit to District(5): Mafisa District		
25-June	Wed	Meeting with Mr. Philip (ASDP Secretariat)	Visit to District(6): Kibaha Township		
26-June	Thu				
27-June	Fri	Informal Donor Meeting at World Bank	Visit to District(7): Mkranga Township		
28-June	Sat				
29-June	Sun				
30-June	Mon				

Saturdays, Sundays and public holidays

(出所：調査団作成)